



日本地球化学会ニュース

No. 222 September 2015

Contents

年会のお知らせ	2
「2015年度日本地球化学会第62回年会のお知らせ(3)」	
学会からのお知らせ	5
地球化学若手シンポジウム2015のご案内	
日本地球惑星科学連合2015年大会報告	
Geochemical Journalの最近の動向	
書評	8
「図説 日本の湖」	
付録	9
年会プログラム	

年会のお知らせ

2015年度日本地球化学会 第62回年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：国立大学法人横浜国立大学，日本鉱物科学会，
日本化学会，日本分析化学会，日本地質学会，
日本質量分析学会

後援：(公財) 横浜観光コンベンション・ビューロー
(YCVB)

会期：平成27年9月16日(水)～18日(金)

会場：横浜国立大学常盤台キャンパス(教育人間科学
部講義棟6号館，7号館，懇親会は第一食堂)
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

年会サイト：<http://geochem.jp/conf/2015/index.html>

交通：【バス利用】 横浜駅西口から平日のみ運行の構
内乗入れバス，相鉄バス「浜10系統 横浜国大
経由横浜駅西口行き」(朝，増便あり)，また
は，横浜市営バス「201系統 横浜駅西口(和
田町経由)行，329系統 横浜駅西口(松本経
由)行」で約20分「国大中央」バス停下車
(220円)。そのほか近隣の岡沢町バス停から横
浜駅西口行きのバス便あり。

*横浜駅西口の乗り場，構内乗入れバスの時刻
表についての詳細な情報は，アクセスとキャン
パス案内図をご覧ください。

*懇親会後は，会場の第一食堂前より横浜駅ま
での無料バスを運行いたします。

*夜間集会後は臨時バスを運行します(運賃
200円，現金のみ)。

【最寄り駅から徒歩】 横浜市営地下鉄三ツ沢上
町駅から徒歩16分，または，相鉄線和田町駅
(各停のみ停車)から徒歩20分。

アクセス方法の詳細やキャンパス近隣のバス停
を通る他のバス便およびキャンパス内の地図に
ついては，次のサイトもご参照下さい。横浜国
立大学サイト：<http://www.ynu.ac.jp/access/>

内容：口頭発表およびポスター発表，夜間集会，ラン
チョンセミナー，学会賞記念講演，総会，懇親
会，閉会式等。口頭発表はA, B, C, D, E会場の
5会場で行います。ポスター発表は，7号館2階
のP会場，ランチョンセミナーは7号館3階の
F会場，総会・学会賞記念講演は6号館1階の
G会場，夜間集会は7号館1階のC会場，懇親

会は第一食堂，閉会式は7号館1階のC会場で
行います。関連イベントとして，9月15日(火)
にショートコース，9月19日(土)に市民講演
会を開催します。

講演セッション：特別セッション(3件)，学会基盤
セッション(16件)が行われます。詳しくは
年会HPをご覧ください。

<http://geochem.jp/conf/2015/abst.html>

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を
行った日本地球化学会学生会員に授与します。
受賞者発表・表彰式は年会最終日の閉会式で行
います。

プログラム：以下にも掲載されております。

<http://geochem.jp/conf/2015/program.html>

講演要旨は8月中旬から，J-STAGE上で公開
されます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geochemproc>
なお，要旨集の事前送付は行いません。学会当
日に会場にて配布いたします。

年会当日の受付：7号館1階入口付近で8時15分から
開始します。

口頭発表について：

- ・口頭発表時間は，招待講演・基調講演を除き，
討論を含めて15分です。発表を12分以内で
終了し，少なくとも3分の討論時間を確保す
るよう努めて下さい。10分で第1鈴，12分で
第2鈴，15分で講演終了の第3鈴が鳴ります。
招待講演・基調講演の時間は20分，25分，30
分場合がありますので，プログラムでご確
認ください。討論等の時間配分についてはセッ
ションコンビーナーにお問い合わせください。
- ・口頭発表には各会場で液晶プロジェクター
1台のみを使用できます。また，会場には共
用PC(OS: Windows7, PowerPoint2010)を
一台用意しますので，発表前に各自発表用の
ファイルを共用PCのデスクトップにコピー
しておいてください。スムーズな発表者の交
替ができるように，発表されるセッション前
の休憩時間に一度動作確認をしていただくこ
とをお勧めします。また，どうしても自分の
PCを使って発表したい方は，必ず事前に動
作確認をしておいてください。

ポスター発表について：

- ・ポスターを掲示するパネルはA0縦長サイズ

(縦 119 cm×横 84 cm) が貼れる大きさです。パネルには予めポスターの発表番号が示してありますので、各自の発表番号をプログラム等で確認して掲示して下さい。掲示に使用する画鋏・テープなどは年会事務局で用意いたします。

- ・ポスターセッションは初日、2日目、3日目に開催され、ポスター発表のコアタイムは同じセッションの口頭発表が行われる日の13時から14時30分(1時間30分)です。詳しくはプログラムをご覧ください。
- ・ポスターは学会期間中終日掲示可能です。各自のポスターはコアタイムまでには必ず掲示し、コアタイムには発表者はポスター前に立って説明してください。ポスターは最終日の15時30分までには必ず撤去してください。それ以降も掲示してあるポスターは年会事務局が撤去・廃棄しますので、ご協力をお願いいたします。

参加当日申込：事前の参加申込をされなかった方は、年会当日に参加登録をしていただきます。お支払いは現金のみとなります。領収書を必要とする場合は、年会当日に受付に申し出ください。

参加登録費（講演要旨集1部を含む）：

	一般会員	学生会員	会員外一般	会員外学生
事前参加登録	5,000円	2,000円	6,000円	3,000円
当日参加登録	7,000円	3,000円	8,000円	4,000円

*なお、会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会申込された方も会員扱とします。学部生は無料（但し要旨集なし）ですが、必ず受付で参加登録をして、名札を受け取って下さい。

追加の講演要旨集：当日手渡し3,000円／部。後日郵送3,500円／部。

クロークサービス：学会期間中のお荷物の預かりは、7号館1階106B・C室前にて行っております。担当者がいない場合には、年会本部7号館1階107号室（管理室）にお越しください。

ミーティングルーム：学会期間中、7号館1階105A・B室をフリーユースのミーティングルームとしてお使いいただけます。予約等はいりませんが、節度あるご使用をお願いいたします。

託児サービス：学会期間中に託児サービスの利用を希

望される方は年会事務局にお早めにご相談ください。

会期中の学内の食堂、カフェ、購買部の営業時間：年会会場の近隣に食堂、カフェ、購買部などがあり、会期中も営業しております。是非、ご利用ください。キャンパス案内図（S8）参照。

第一食堂（れんが館）： 10:00～14:00
大学会館内

1階 購買（お弁当、飲料等）書籍部： 10:30～16:00,
旅行カウンター： 11:00～16:00

2階 シュルシュ（生協食堂）： 11:00～13:30

3階 Porty（レストラン）： 11:30～13:30
（ラストオーダー）

中央図書館

1階 shoca.（カフェ）： 11:30～15:30

○年会会期中のイベント

併設展示：会期中、下記の関連機器メーカー他による展示会を7号館1階の102A号室にて開催します。また、16日と17日の昼休みにはF会場において、企業主催のランチョンセミナーが開催されます。後述の年会関連イベントをご参照ください。奮ってご参加ください。

展示参加企業（順不同）：三洋貿易株式会社科学機器事業部、安井器械株式会社、ジャスコインタナショナル株式会社、紀本電子工業(株)、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社、SIサイエンス(株)、イー・エス・アイ・ジャパン株式会社、株式会社エス・ティ・ジャパン、アイリックス株式会社、株式会社バイテック、Nu Instruments Japan株式会社

夜間集会：9月16日（水）18:15～20:00 C会場
終了後、横浜駅まで臨時バスを運行する予定です（運賃200円、現金のみ）。安心してご参加ください。

—学会新企画— 地球化学メンター懇親会：

日時：9月17日（木） 昼休憩時間
(12:00～13:00)

会場：休憩室A（教育人間科学部講義棟7号館105C室）

備考：弁当持参可

世代間交流の場として地球化学メンター懇親

会を開催いたします。ご年配の方々は若手に
メンターとしてご助言を、若手の方々はメン
ターに研究上の様々な相談をしてみましょ
う。どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

総会：9月17日（木）14：30～15：30 G会場

特別集会（TF活動報告）：

9月17日（木）15：30～16：00 G会場

受賞講演会：9月17日（木）16：00～18：15 G会場

2015年度の各賞の受賞者

日本地球化学会賞

高橋嘉夫会員「XAFS法などによる化学種解
析に基づく環境地球化学的研究」

日本地球化学会奨励賞

服部祥平会員「硫化カルボニルの硫黄同位体
情報を用いた成層圏硫酸エアロゾルの生
成過程に関する研究」

藤谷渉会員「始原的微惑星の集積時期の決定」
癸生川陽子会員「太陽系小天体における有機
物の形成と進化過程の研究」

板井啓明会員「ヒ素などの有害元素の環境中
での挙動に関する研究」

懇親会：9月17日（木）18：30～20：30 第一食堂

懇親会後は横浜駅までの移動手段として無料バ
スを運行いたします。

事前参加予約5,000円（学生2,500円）、当日参
加申し込みは7,000円（学生4,000円）

閉会式：9月18日（金）16：30～17：00 C会場

学生発表賞の表彰式等を行います。是非、ご参
集ください。

○年会関連イベントのご案内

第10回日本地球化学会ショートコース

主催：日本地球化学会

日時：9月15日（火）9時30分から17時30分

場所：横浜国立大学教育人間科学部講義棟7号館
301室 F会場

ランチョンセミナー

年会1日目

『Extending the boundaries of 10 kV isotope
ratio MS

10 kV安定同位体比質量分析計の限界を超え
て—MAT25x シリーズの最新後継機253 Plus』

主催：サーモフィッシャーサイエンティフィック

株式会社

日時：9月16日（水）12時から13時

場所：横浜国立大学教育人間科学部講義棟7号館
301室 F会場

年会2日目

『軽元素安定同位体比分析が変わる！！新製品
visIONのご紹介』

主催：ジャスコインタナショナル株式会社

日時：9月17日（水）12時から13時

場所：横浜国立大学教育人間科学部講義棟7号館
301室 F会場

地球化学若手シンポジウム2015

主催：日本地球化学若手会

日時：9月18日 年会終了後～9月20日（日）

場所：八王子セミナーハウス（東京都）

日本地球化学会 市民講演会

「宇宙・海洋・生命—地球化学が読み解く生命誕生の
謎—」

日本地球化学会は第62回年会の開催に合わせ、本
市民講演会を企画いたします。今年度は、生命の起源
という人類に残された最大の謎は、どこまで解き明か
されているのか。宇宙・海洋・生命科学から謎にアプ
ローチする3人の研究者による講演を聞き、地球化学
により生命の起源を解き明かす道筋を探ります。会員
の皆さまもぜひご参加ください。

主催：日本地球化学会

共催：国立大学法人横浜国立大学

後援：（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー

日時：2015年9月19日（土）13：00～16：00

会場：情報文化センター6階情文ホール（みなと
みらい線「日本大通り駅」3番出口徒歩0分）
会場へのアクセス方法は、下記の地図ある
いは以下のホームページをご覧ください。
[http://www.idec.or.jp/shisetsu/jouhou/
access.php](http://www.idec.or.jp/shisetsu/jouhou/access.php)

対象：中高生、大学生、学校教員、一般の方

参加費：無料

定員：150名 *事前申し込みがなくてもご参加
いただけますが、できるだけ事前参加登録
をお願いいたします。

また、定員となった場合には、事前参加登
録の方を優先いたします。

問することに意識を向け、質問力を鍛えられる場になればと思っています。

さらに特別講演として、論文作成の指南書を出版していらっしゃる先生をお招きして、若手研究者向けの論文書き方講座を行っていただく予定です。最終日には、ジャスコインタナショナル株式会社にご協力いただき、地球化学に関連する様々な分析装置を見学・体験できるラボツアーを企画しています。

盛り沢山な内容となっておりますが、参加者の皆様が楽しめてかつ有意義なシンポジウムを開催したく運営委員一同で計画を練って参りますので、どうぞよろしくお願い致します。遠方援助や当日のスケジュールなど、詳細な情報はHPをご覧ください。お問い合わせは下記連絡先までお願い致します。

石野咲子（東工大）、青山慎之介（東工大）、
渡辺勇輔（東大）神林翔太（富山大）、
滝沢侑子（北大）、服部祥平（東工大）

【開催概要】

日時：9月18日（金）～9月20日（日）

会場：八王子セミナーハウス

参加費：

学生：1万円（宿泊・食事代込）

PD以上：1万5000円（宿泊・食事代込）

プログラム：

1. 招待講演

・高橋嘉夫先生（東京大学）

講演名：Geo-Chemistry or Chemical Geoscience：分子地球化学への誘い

・酒井聡樹先生（東北大学）

講演名：これから論文を書く若者のために

2. グループワーク：質問してみよう

3. 参加者による口頭またはポスター発表

4. 懇親会

5. ジャスコインタナショナル株式会社における ラボツアー

お問い合わせ：

地球化学若手シンポジウム2015運営委員

Mail: geochemwakate2015@gmail.com

HP: <https://sites.google.com/site/geochem2015wakate/home>

●日本地球惑星科学連合2015年大会報告

日本地球惑星科学連合大会は、地球科学、惑星科学、宇宙科学に関連する日本最大の学術会議で、1990年から開催されています。今年の連合大会は、5月24日から28日までの5日間、千葉県の幕張メッセで開催されました。例年同様の時期の開催で、セッション数は189、全投稿件数は約4037件と昨年よりセッション数で4件減少したものの、発表数は231件増加で実施されました。ただし、全参加者数はのべ6689名と昨年より350名ほど少ない数でした。例年通り、複数の地球化学関連のセッションの開催に加え、夜間集会で大型研究計画に関する日本地球化学会の取り組みの紹介なども行われ、活発な議論が行われました。また、日本地球惑星科学連合では国際化を進めていることから、国際セッション（口頭発表ならびにポスター発表の言語を英語とする）の数も多くなっており、59のセッションが国際セッションとして開かれていました。国際化に向けて2017年にはAGUとの共同開催を計画しています。その一環として今年の連合大会では、“Geoscience Ahead” セッションでは、AOGS, AGU, EGUの会長の講演が行われ、各国際学会のこれまでの取り組みや今後の展開などについての紹介がありました。我が国における地球惑星科学分野の将来展望を考える上で貴重なセッションであり広く人を集めるセッションとなっていました。

日本地球化学会の学協会ブースでは、評議員と広報委員の方々にお手伝いいただき、学会員の勧誘、ノベルティやパンフレットの配布、機関誌である地球化学の格安販売やGeochemical Journal収録CDサンプルの無料配布、地球化学若手会や日本地球化学会2015年会、ショートコース等の研究集会の案内を行いました。また、学会員が著者となっている書籍の販売も行い、これらは最大25%引き割引価格や付録付きで販売されました。東京大学出版会の著書に関しては、同社ブースと連携して販売を行った。

日本地球惑星連合大会の投稿数、参加者数は毎年右肩上がりに増加しています。この事実、この大会に対する日本地球惑星関連学会の会員の関心の高まりを表しています。来年は再び場所を幕張メッセにて、2016年5月22日（日）から5月26日（木）までの5日間での開催が決まっております。日本地球惑星連合大会は専門が異なる分野の研究者と交流や接点を作る絶好の機会でもありますので、是非とも来年も多くの日本地球化学会会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

下記に今回、日本地球化学会ブースで販売した会員書籍のリストを示します。

編著者：中島映至・大原利眞・植松光夫・恩田裕一(編)
著書名：原発事故環境汚染—福島第一原発事故の地球科学的側面
出版社：東京大学出版会

編著者：川幡穂高(訳)・Broecker(著)
著書名：気候変動はなぜ起こるのか
出版社：講談社

編著者：蒲生俊敬(編著)
著書名：海洋地球化学
出版社：講談社

編著者：琉球大学理学部「琉球列島の自然講座」編集委員会(編)
著書名：琉球列島の自然講座 サンゴ礁・島の生き物たち・自然環境
出版社：ポーターインク社

編著者：臼井朗・高橋嘉夫・伊藤孝・丸山明彦・鈴木勝彦(著)
著書名：海底マンガン鉱床の地球科学
出版社：東京大学出版会

編著者：臼井朗(著)
著書名：海底鉱物資源
出版社：オーム社

編著者：川幡穂高(著)
著書名：地球表層環境の進化
出版社：東京大学出版会

(広報委員会 JpGU担当 平野直人,
広報担当幹事 原田尚美)

● Geochemical Journalの最近の動向

IF (Impact factor) とは、ある雑誌の発行論文がどの位引用されたのかを示す数字で、この値が大きいほど掲載された一つの論文あたりの引用率が高いということになります。Geochemical Journal (GJ) について見てみると、2012年(1~12月)と2013年(1~12月)に出版された論文について、総引用数を出版された総論文数で除したものが、2014年のIFとなります。IFは、もともと雑誌の影響力を判断するために導入されたものです。そこで、IFが高い雑誌に掲載された論文だからといって、すべての論文の引用率が高いわけではないので、注意が必要です。皆様も忙しい毎日をお過ごしのことと思います。1年間に読める論文数には自ずと限界があることが容易に想像されます。その数は年間200本程度との欧米で採られた統計があります。「時間の制約のある暮らしの中で有益な情報を得たい」という趣旨から、高いIF雑誌を重宝する理由がここにあります。GJのIFは1.5(2014年)、1.9(2013年)なので、日本の学会が出版する国際誌の中で比較的高い評価を得ていることがわかります。掲載論文1本あたり、それぞれ年間1.5、1.9回引用されたということになります。さらに、引用した雑誌について見るとGJ以外の雑誌の論文で引用された分が95%となっています。このことから、主に海外の国際誌でGJに掲載された論文が引用されたことがわかります。このことは、GJではあまり引用されなかったということも意味しています。通常は同じ雑誌内での引用が高くなる傾向があります。GJで掲載された論文を読み、その成果を参考に皆様の研究が発展し、GJに論文を発表していただければ、GJはさらに影響力のある雑誌に発展すると期待されます。

データ：GJの2014年のIFは1.505、GJ以外の雑誌に引用されたものが96%。2013年のそれぞれの値は1.942、95%でした。

Year	Journal impact factor	Impact factor without journal self cites
2014	1.505	1.441
2013	1.942	1.854
2012	0.758	0.737
2011	0.711	0.680
2010	0.802	0.709



書 評

「図説 日本の湖」

(森 和紀, 佐藤芳徳著, 朝倉書店, 2015年3月発行, 176ページ, ¥4,300+税)

朝倉書店の図説シリーズ, 日本の「山」, 「河川」, 「海岸」, 「植生」, 「樹木」, 「土壌」に続く, 第7作「湖」という位置付けである。著者らは, 本書により「大地の鏡, 小宇宙としての“湖”の実像が視覚的に浮かびあがる」ことを期待している。二部構成となっており, 巻末には172湖沼の位置と湖盆形態が付表としてまとめられている。

第I部「湖の科学」が陸水学のガイドブックとしての役割を果たしている。第1章「湖の世界」においては, マイクロコズムとして捉えた閉鎖系水域, 水循環との関わりを意識した流域, 地球環境変化のセンサーとしての機能といったように, 湖沼学の研究対象がどのように変遷したかが解説されている。田中阿歌磨子爵(1869~1944)の山中湖における水温観測と測深に始まり, 吉村信吉博士(1907~1947)の大著『湖沼学』出版に至る日本の陸水学の黎明と, 琵琶湖の湖底堆積物を利用した300万年にわたる古環境の復元やトリチウムをトレーサーに利用した湖水滞留時間の解明といった, その後の展開が整理されている。第2章「湖の自然」では, 湖盆の成因, 水収支, 湖流, 湖水

と堆積物の物理化学性, 湖沼型といった湖沼学の基礎事項が簡潔に解説されており, 第II部を読み進める上でも役に立つ。

第II部「日本の湖沼環境」は湖沼カタログである。北海道, 東北, 関東, 甲信越・東海・北陸, 近畿・中国・四国, 九州の6章立てで, 全部で38の湖沼・湖沼群の形・成因・性質といった自然科学的側面を概説し, あわせて関連する文化を紹介している。水文学的に重要な湖沼は, 面積や最大水深が小さくても取り上げられている。各々については, “諏訪湖—御御渡りの記録から過去の気候変動が復元”, “富士五湖—「富士山: 信仰の対象と芸術の源泉」の一部としての世界遺産」といった紹介がなされていて楽しい。地質年代の世界標準となった年縞で知られる水月湖を含む部分循環湖の三方五湖には“湖沼環境の多様性と特異性で世界的に注目”という見出しが与えられている。見開きの左ページに文章による湖の説明が, 右ページに地勢図, 湖盆図, 写真とともに水温・pH・DOの鉛直プロファイルがまとめて掲載されており, 読者に親切的な構成である。4色刷りの写真に親しみを覚えるのは, そのほとんどが研究者による撮影であるためだろうか。

湖沼カタログから一つを選んで見開きページを一読, 次いでグーグルアースで俯瞰してから, ストリートビューでアプローチする。ちょっとした巡検気分である。水文学, 陸水学, 自然地理学はもちろん, 地球化学の研究者や研究室にとっても重宝する1冊となろう。

(日本大学 上田眞吾)

2015 年度
日本地球化学会

第 62 回年会
講演プログラム



セッション概要

(口頭発表会場と時間帯、ポスター発表番号)

1:9月16日(水)、2:9月17日(木)、3:9月18日(金)

セッションテーマ	日程・会場・時間帯	
	口頭発表	ポスター発表
＜特別セッション＞		
S01 鉱物資源の地球化学～陸上鉱床から海底鉱物資源まで～	1A 午前・午後	1P 01-05
S02 鉄の地球微生物学と地球化学	2C 午前	2P 01・02
S03 大気水圏光化学反応過程	3B 午前	3P 01・02
＜学会基盤セッション＞		
G01 大気微量成分の地球化学	1B 午前	1P 06-11
G02 古気候・古環境解析の地球化学	1D 午後	1P 11-19
G03 放射性廃棄物と地球化学	3D 午後	3P 03
G04 鉱物境界面の地球化学、水-岩石相互作用	2D 午前	2P 03
G05 海洋における微量元素・同位体	1E 午前・午後	なし
G06 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環	3D 午前	3P 04
G07 マントル物質の化学とダイナミクス	1D 午前	1P 20・21
G08 宇宙化学・惑星化学	3A 午前・午後	3P 05-10
G09 生物と有機物の地球化学	2A 午前	2P 04-08
G10 水圏や土壌圏の環境地球化学	3C 午前・午後	3P 11-22
G11 地球内部流体の化学	1C 午後	1P 22-25
G12 最先端計測・同位体化学の地球化学及び境界領域への応用	2B 午前	2P 09-20
G13 原発事故で放出された放射性核種の環境動態	2D 午前	2P 21-23
G14 初期地球と生命起源の地球化学	1C 午前・午後	1P 26-32
G15 海洋化学・大気化学(全般)	1E 午後	1P 33-35
G16 固体地球化学(全般)	1B 午後	1P 36-42

*「1A 午前」は、1日目のA会場、午前に開催されることを意味します。

**ポスター発表の1Pは1日目、2Pは2日目、3Pは3日目の13:00～14:30にコアタイムが開催されます。

***夜間集会「学会の将来について考えるー来年のイベントから長期展望までー」は、1日目C会場にて
18:15～20:00に行われます(全てのセッションが終了次第開始)。

2015年度 日本地球化学会年會 全体タイムスケジュール

[illegible]

第1日目(9月16日) 口頭発表 午前

【A会場】

S01 鉱物資源の地球化学～陸上鉱床から海底鉱物資源まで～(1)

コンピーナー：土岐知弘・野崎達生・中村謙太郎・大竹翼・池端慶

09:00 1A01

海底鉱物資源開発と地球化学者の役割

○浦辺 徹郎¹(¹東京大学名誉教授、SIP次世代海洋資源調査技術プログラムディレクター)

09:15 1A02

沖縄トラフにおける海底熱水研究・調査

○熊谷 英憲¹、及川 光弘²、南 宏樹³、中村 謙太郎³、川口 慎介¹、北田 数也¹、宮崎 淳一¹、高井 研¹(¹海洋研究開発機構、²海上保安庁、³東京大学大学院)

09:30 1A03

マルチビーム音響測深機を用いた海底熱水噴出孔の探査：中部沖縄トラフを例として

○中村 謙太郎¹、川口 慎介²、北田 数也²、熊谷 英憲³、高井 研³、沖野 郷子⁴(¹東京大学大学院、²海洋研究開発機構、³研究開発機構、⁴東京大学)

09:45 1A04

沖縄トラフ海底熱水中のLi同位体比から導かれた海底下における固相側の情報について

○土岐 知弘¹、平敷 紗和子¹、新城 竜一¹、石橋 純一郎²(¹琉球大学、²九州大学)

10:00 1A05

沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト

○野崎 達生¹、石橋 純一郎²、島田 和彦³、長瀬 敏郎³、高谷 雄太郎⁴、加藤 泰浩³、川口 慎介¹、和辻 智郎¹、澁谷 岳造¹、山田 亮一³、猿橋 具和¹、許 正憲¹、高井 研¹(¹海洋研究開発機構、²九州大学、³東北大学、⁴早稲田大学、⁵東京大学)

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 1A06 招待講演

黒鉱鉱床の多様性と熱水循環系の規模

○山田 亮一¹(¹東北大学)

11:00 1A07

秋田県北鹿地域にみられる鉄・マンガンに富む化学堆積岩の鉄同位体比の特徴と黒鉱鉱床との関係性

○大竹 翼¹、鈴木 陵平¹、山田 亮一²、申 基澈³、昆 慶明⁴、佐藤 努¹(¹北海道大学、²東北大学、³総合地球環境学研究所、⁴産業技術総合研究所)

11:15 1A08

秋田県北鹿地域に産する海洋堆積物と凝灰岩におけるマンガンと鉄の挙動に関する研究

○塚本 雄也¹、掛川 武¹(¹東北大学大学院理学研究科地学専攻)

11:30 1A09

インドネシア・パンテン州・チサダン地域における金鉱化作用の鉱物学的特徴

○黒田 敦弘¹、米津 幸太郎¹、Mega F. ROSANA²、Sukumandaru PRIHATMOKO³、渡邊一郎¹(¹九州大学大学院、²Padjadaran Univ.、³PT AGC Indonesia)

11:45-12:00 1A10

海底熱水性硫化鉱物の銅同位体比の特徴

○池端 慶¹、石橋 純一郎²、平田 岳史³(¹筑波大学、²九州大学、³京都大学)

【B会場】

G01 大気微量成分の地球化学

コンピーナー：宮崎雄三・岩本洋子・豊田栄・角皆潤

09:30 1B01 招待講演

高CO₂・気候変動下の大気-水田間の窒素交換

○林 健太郎¹、常田 岳志¹、長谷川 利弘¹(¹農業環境技術研究所)

10:00 1B02

富栄養湖沼手賀沼の表面水二酸化炭素分布とその変動要因

○葛西 眞由子¹、時枝 隆之¹、谷口 雄哉¹、伊波 はるな¹、中山 典子²、小菅 瞭吾¹(¹気象庁、²東京大学)

10:15 1B03

種々の大気試料中N₂Oのisotopocule比測定用自動前処理装置の開発

○豊田 栄¹、吉田 尚弘¹(¹東京工業大学)

10:30 1B04

さまざまな大気環境における塩素消失に関わる化学反応の推定

○坂田 昂平¹、坂口 綾²、為則 雄祐³、高橋 嘉夫⁴(¹広島大学、²筑波大学、³公益財団法人 高輝度光科学研究センター、⁴東京大学)

10:45-11:00 休憩(15分)

11:00 1B05

エアロゾル中の人為起源鉄の著しく低い安定同位体比に基づく海洋表層への人為起源鉄の寄与の評価

○栗栖 美菜子¹、宮原 彩²、山川 庸芝明¹、宮本 千尋¹、坂田 昂平²、飯塚 毅³、植松 光夫¹、高橋 嘉夫¹(¹東京大学、²広島大学)

11:15 1B06

飛沫から生成する海洋起源エアロゾルの化学的特徴 II—有機物の質量スペクトルの解析

○岩本 洋子¹、持田 陸宏²、Sandric C. Y. Leong³、石坂 丞二²(¹東京理科大学、²名古屋大学、³シンガポール国立大学)

11:30 1B07

富士北麓カラマツ林内におけるテルペン類由来シュウ酸エアロゾルの生成

○望月 智貴¹、宮崎 雄三¹、河村 公隆¹、小野 かおり¹、和田 龍一²、高橋 善幸³、三枝 信子³、谷 晃⁴(¹北海道大学低温科学研究所、²帝京科学大学、³国立環境研究所、⁴静岡県立大学)

11:45-12:00 1B08

冷温帯林における窒素付加による植生起源二次有機エアロゾル生成への影響

○宮崎 雄三¹、川上 裕美¹、竹内 友美¹、河村 公隆¹、中路 達郎¹、日浦 勉¹(¹北海道大学)

第 1 日目 (9 月 16 日) 口頭発表 午前

【C会場】

G14 初期地球と生命起源の地球化学 (1)

コンピーナー：古川善博・薮田ひかる・小宮剛・渋谷岳造・小林憲正

09:00 1C01 基調講演

比較惑星海洋学とハビタビリティ

○関根 康人¹ (¹東京大学)

09:30 1C02 招待講演

地球形成と初期進化

○玄田 英典¹ (¹東京工業大学)

10:00 1C03

海洋底アルカリ熱水变成作用と熱水組成の経年変化

○小宮 剛¹ (¹東京大学・駒場)

10:15 1C04

弱還元型惑星大気中でのアミノ酸生成のエナジェティック：タイタンと原始地球

○小林 憲正¹, 阿部 仁美¹, 伊勢 絢一¹, 癸生川 陽子¹, 依田 功², 福田 一志², 近藤 康太郎², 小栗 慶之² (¹横浜国立大学, ²東京工業大学)

10:30-10:45 休憩(15分)

10:45 1C05

衝撃波による液体ベンゼンの反応

○三村 耕一¹, 西田 民人¹ (¹名古屋大学大学院)

11:00 1C06

プロテノイド共重合体の質量分析計を用いた構造解析

○永沢 恵理子¹, 三田 肇² (¹福岡工業大学大学院, ²福岡工業大学)

11:15 1C07

メイラード・タイプ反応で生成する微小球状有機物のサイズ・形態・組成分布

○高橋 絢子¹, 薮田 ひかる¹ (¹大阪大学)

11:30 1C08

自然科学研究機構 アストロバイオロジーセンター 「実験・観測・計算シナジーによる自然界における生体分子の非対称性起源の解明」プロジェクト

○高橋 淳一¹, 小林 憲正², 田村 元秀³, 梅村 雅之⁴, 加藤 政博⁵ (¹大阪大学, ²横浜国立大学大学院, ³東京大学大学院, ⁴筑波大学, ⁵分子科学研究所)

11:45-12:00 1C09

グリーンランド・イスア表成岩体の變成堆積岩中でのトルマリンの産出：冥王代海洋堆積物中におけるリボース安定化に対する示唆

○三嶋 慎平¹, 大友 陽子², 掛川 武¹ (¹東北大学大学院, ²北海道大学大学院)

【D会場】

G07 マントル物質の化学とダイナミクス

コンピーナー：石川晃・下田玄・鈴木勝彦・小木曾哲

09:15 1D01

オントンジャワ海台玄武岩の強親鉄性元素組成

○石川 晃¹, 越田 湊子¹, 小宮 剛¹, 宇都宮 敦², Maria Luisa Tejada³, 鈴木 勝彦³, 佐野 貴司⁴ (¹東京大学, ²株式会社ジオ・コミュニケーションズ, ³海洋研究開発機構, ⁴国立科学博物館)

09:30 1D02

伊豆-ボニン-マリアナ島弧初生火山岩における白金族元素の挙動

○仙田 量子¹ (¹海洋研究開発機構)

09:45 1D03

初期太古代アカスタ片麻岩体苦鉄質岩の強親鉄性元素およびRe-Os同位体組成

○越田 湊子¹, 石川 晃², 鈴木 勝彦³, 小宮 剛² (¹東京大学大学院, ²東京大学, ³海洋研究開発機構)

10:00 1D04

Petrogenesis of I- and A-type granitoid plutons in the Shalair Valley area of the Zagros Suture Zone, NE Iraq

○KADHIM Imad¹, HADI Ayten¹, 浅原 良浩², 山本 鋼志² (¹バグダッド大学, ²名古屋大学大学院)

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 1D05

南部アンデス弧におけるフッ素の島弧縦断変化と挙動

○遠山 知亜紀¹, 折橋 裕二², 新正 裕尚³, 角野 浩史², 岩森 光¹, 村松 康行⁴ (¹海洋研究開発機構, ²東京大学, ³東京経済大学, ⁴学習院大学)

10:45 1D06

ブチスボット火山活動はリソスフェアに引きずられたメルト池に由来する

○町田 嗣樹¹, 平野 直人², 角野 浩史³, 平田 岳史⁴, 米田 成一⁵, 加藤 泰浩³ (¹海洋研究開発機構, ²東北大学, ³東京大学, ⁴京都大学, ⁵国立科学博物館)

11:00 1D07

高温高圧下における窒素流体中でのカンラン石の挙動

○久保 俊智¹, 鍵 裕之², 篠崎 彩子², 岡田 卓³, 中野 智志⁴, 中尾 愛子⁵ (¹東京大学大学院, ²名古屋大学大学院, ³東京大学, ⁴物質材料研究機構, ⁵理化学研究所)

11:15 1D08

海洋地殻の化学組成の多様性と連続脱水：HIMU-FOZO-PREMAの成因的関連

○下田 玄¹, 小木曾 哲² (¹産業技術総合研究所, ²京都大学)

11:30 1D09

マントル組成の東西半球構造と全地球ダイナミクス

○岩森 光¹, 中村 仁美², 吉田 晶樹¹, 柳 竜之介² (¹海洋研究開発機構, ²東京工業大学)

11:45-12:00 1D10

Late veneerと地球の希ガス

○兼岡 一郎¹ (¹東京大学)

第 1 日目 (9 月 16 日) 口頭発表 午前

【E会場】

G05 海洋における微量元素・同位体 (1)

コンピーナー：小畑元・堀川恵司・田副博文・高野祥太郎

09:15 1E01

海水中タングステン安定同位体比分析法の開発

○村田 レナ¹, 高野 祥太郎², 宗林 由樹², 平田 岳史² (¹京都大学大学院, ²京都大学)

09:30 1E02

海水中ニッケル、銅、亜鉛同位体比の迅速・精密分析法の開発

○高野 祥太郎¹, 宗林 由樹¹, 上原 渉¹, 申 基澈², 谷水 雅治³, 平田 岳史¹ (¹京都大学, ²総合地球環境学研究所, ³関西学院大学)

09:45 1E03

南インド洋におけるNd同位体比の深度分布

○天川 裕史¹, 余 采倫², 沈 川洲² (¹海洋研究開発機構, ²國立台湾大学)

10:00 1E04

海藻のOs同位体比を利用した海水における人為起源および地質学的起源インバクトの検出

○鈴木 勝彦¹, Adam D. Sproson², David Selby², Kevin Burton² (¹海洋研究開発機構, ²ダラム大学)

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 1E05 基調講演

海洋環境における水銀の形態変化と生物移行

○武内 章記¹ (¹国立環境研究所)

11:00 1E06

チャクチ海・ベーリング海におけるI-129の鉛直分布およびその供給経路に関する研究

○三輪 一爾¹, 小畑 元², 鈴木 崇史¹, 乙坂 重嘉¹ (¹日本原子力研究開発機構, ²東京大学大気海洋研究所)

11:15 1E07

長崎県橘湾における海水中の亜鉛の濃度と存在状態

○金 泰辰¹, 武田 重信², 蒲生 俊敬¹, 小畑 元¹ (¹東京大学, ²長崎大学)

11:30 1E08

湖沼におけるナノ粒子態酸揮発性硫化物

○中山 典子¹, 時枝 隆之², 加西 真由子², 鈴木 麻彩実¹, 金 泰辰¹, 蒲生 俊敬¹, 小畑 元¹ (¹東京大学大気海洋研究所, ²気象大学校)

11:45-12:00 1E09

河口域および河川における白金の分布と挙動

○鈴木 麻彩実¹, 小畑 元¹, 蒲生 俊敬¹ (¹東京大学)

第1日目(9月16日) 口頭発表 午後

【A会場】

S01 鉱物資源の地球化学～陸上鉱床から海底鉱物資源まで～ (2)
コンピーナー：土岐知弘・野崎達生・中村謙太郎・大竹翼・池端慶

14:30 1A11

鉄マンガング団塊への微量元素の濃集機構：ヒ素、アンチモン及びモリブデン
○上杉 宗一郎¹,高橋 嘉夫¹,田中 雅人¹,柏原 輝彦² (¹東京大学大学院,²海洋研究開発機構)

14:45 1A12

海水条件での δ -MnO₂へのPt(II)、Pd(II)の濃縮異常の解明
○田中 和也¹,川本 大祐¹,大橋 弘範²,岡上 吉広¹,横山 拓史¹ (¹九州大学大学院,²福島大学)

15:00 1A13

インド洋深海堆積物の地球化学：インド洋におけるレアアース泥の分布に対する示唆
○安川 和孝¹,中村 謙太郎¹,藤永 公一郎¹,町田 嗣樹²,大田 隼一郎¹,高谷 雄太郎³,加藤 泰浩¹ (¹東京大学,²海洋研究開発機構,³早稲田大学)

15:15 1A14 招待講演

海底鉱物資源回収のための選鉱学的应用に関する研究
○藤田 豊久¹ (¹東京大学)

15:45-16:00 休憩(15分)

16:00 1A15

液体の遮蔽効果を利用した水中放射能探査法
○池田 和隆

16:15-16:45 1A16 基調講演

海底資源開発の環境影響評価と地球化学研究
○川口 慎介¹ (¹海洋研究開発機構)

【B会場】

G16 固体地球化学 (全般)

コンピーナー：折橋裕二・小宮剛・大野剛・山本伸次・角野浩史

14:30 1B09

箱根山大涌谷火山ガスに含まれる水蒸気および水素ガスの同位体比変動
○大場 武¹,谷口 無我¹,高木 健太¹,左合 正和¹,池谷 康祐²,角皆 潤³ (¹東海大学,²名古屋大学)

14:45 1B10

噴煙の安定同位体組成を利用した桜島火山の遠隔噴気温度測定
○角皆 潤¹,程 林¹,池谷 康祐¹,小松 大祐¹,中川 書子¹,篠原 宏志² (¹名古屋大学,²産業技術総合研究所)

15:00 1B11

マントル捕獲岩のハロゲン組成にみられるマントルメタソマトイズムの影響
○小林 真大¹,角野 浩史¹,長尾 敬介¹,Ray Burgess²,石丸 聡子³,荒井 章司⁴,芳川 雅子⁵,川本 竜彦³,熊谷 仁孝⁵,小林 哲夫⁶,中村 美千彦⁷,高橋 栄一⁸ (¹東京大学,²マンチェスター大学,³熊本大学,⁴金沢大学,⁵京都大学,⁶鹿児島大学,⁷東北大学,⁸東京工業大学)

15:15 1B12

ドロマイト質石灰岩中のカルサイト部分とドロマイト部分の微量元素含有量の検討
○外山 浩太郎¹,寺門 靖高¹ (¹神戸大学大学院)

15:30 1B13

微量元素分析によるモナザイト形成環境の制約
○板野 敬太¹,飯塚 毅² (¹東京大学大学院,²東京大学)

15:45 1B14

後期更新世ジルコンのウラントリウム-鉛年代測定法の開発と評価
○坂田 周平¹,岩野 英樹²,檀原 徹²,平田 岳史¹ (¹京都大学大学院,²京都フィッション・トラック)

16:00 1B15

LA-ICPMS法を用いたジルコンの高空間分解能二次元Pb/U比マッピング
○服部 健太郎¹,坂田 周平¹,山本 伸次¹,平田 岳史¹ (¹京都大学,²東京大学)

16:15-16:20 休憩(5分)

16:20 1B16

凝灰岩のジルコンU-Pb年代による付加体層序の検討―屋久島の四万十累層群を例として―
○安間 了¹,折橋 裕二² (¹筑波大学,²東京大学)

16:35 1B17

九州地方における、西南日本外帯、中期中新世花崗岩類のマグマ活動史の全容解明：LA-ICPMS U-Pb年代測定による制約
○折橋 裕二¹,新正 裕尚²,安間 了³ (¹東京大学,²東京経済大学,³筑波大学)

16:50 1B18

かつて「新期」「古期」と呼ばれていた花崗岩類の貫入年代差 ―東北日本、阿武隈地域―
○昆 慶明¹,江島 輝美¹,森田 沙綾香¹,高木 哲一¹ (¹産業技術総合研究所)

17:05 1B19

碎屑性ジルコン年代分布およびK-S検定を用いた三郡変成帯・蓮華変成岩類の後背地推定の試み
○高地 吉一¹,折橋 裕二²,山本 鋼志³,大藤 茂¹ (¹富山大学大学院,²東京大学,³名古屋大学)

17:20 1B20

初期太古代ジルコンのU-Pb年代と包有物の⁴⁰Ar-³⁹Ar年代
○山本 伸次¹,小宮 剛¹,越田 湊子¹,兵藤 博信²,佐藤 佳子³,熊谷 英憲³,渋谷 岳造⁴,下條 将徳⁵,坂田 周平⁶,平田 岳史⁵ (¹東京大学,²岡山理科大学,³海洋研究開発機構,⁴石油天然ガス・金属鉱物資源機構,⁵京都大学)

17:35 1B21 基調講演

タングステン同位体から探る地球初期進化
○賞雅 朝子¹,中井 俊一²,飯塚 毅³ (¹放射線医学総合研究所,²東京大学地震研究所,³東京大学)

17:55-18:15 1B22 招待講演

ニュートリノ振動を用いた地球深部の化学組成測定
○武多 昭道¹,ロット カーステン² (¹東京大学,²成均館大学)

第 1 日目 (9 月 16 日) 口頭発表 午後

【C会場】

G14 初期地球と生命起源の地球化学 (2)

コンピーナー：古川善博・荻田ひかる・小宮剛・渋谷岳造・小林憲正

14:30 1C10

西オーストラリア・ノースポール地域の変質玄武岩の四種硫黄同位体比から制約する太古代海底下微生物活動
○青山 慎之介¹, 上野 雄一郎² (¹東京工業大学, ²東京工業大学, 地球生命研究所, 海洋研究開発機構)

14:45 1C11

原生代前期全球凍結時の大気CO₂分圧
○渋谷 岳造¹, 上野 雄一郎², 小宮 剛³, 西澤 学¹, 北島 宏輝⁴, 山本 伸次³, 齋藤 拓也², 松井 洋平¹, 川口 慎介¹, 高井 研¹, 吉田 尚弘², 丸山 茂徳², ラッセル マイケル⁵ (¹海洋研究開発機構, ²東京工業大学, ³東京大学, ⁴ウィスコンシン大学, ⁵ジェット推進研究所)

15:00 1C12

22億年前Ongeluk累層中に産する熱水性石英を用いた当時の海水組成の復元
○齋藤 拓也¹, 渋谷 岳造², 澤木 佑介¹, 小宮 剛³, 丸山 茂徳¹ (¹東京工業大学, ²海洋研究開発機構, ³東京大学)

15:15 1C13

シアノバクテリアプロモーター配列に記録された地球大気酸素濃度上昇イベント
○原田 真理子¹, 古川 龍太郎², 横堀 伸一², 田近 英一¹, 山岸 明彦² (¹東京大学大学院, ²東京薬科大学)

15:30-15:45 休憩(15分)

G11 地球内部流体の化学

コンピーナー：岩森光・小木曾哲・石橋純一郎・野口直樹・益田晴恵

15:45 1C14 基調講演

三波川変成帯・高圧変成岩中に捕獲された沈み込み帯深部流体のB-Li-Cl相対組成
○吉田 健太¹, 平島 崇男², 大沢 信二², 小林 記之³, 三島 壮智², 千眼 喜照² (¹大阪市立大学大学院, ²京都大学, ³名古屋学院大学)

16:15 1C15

有馬温泉水の希土類元素から探る深部流体上昇過程
○中村 仁美¹, 千葉 紀奈¹, 常 青¹, 中井 俊一², 風早 康平³, 岩森 光¹ (¹海洋研究開発機構, ²東京大学地震研究所, ³産業技術総合研究所)

16:30 1C16 基調講演

火星の水の起源および地殻-マントル相互作用に関する地球化学的研究：水素同位体組成および揮発性元素濃度分析からの制約
○白井 寛裕¹ (¹東京工業大学)

17:00-17:15 1C17

NanoSIMSによる火山ガラス中の揮発性物質質量の分析法—標準試料の作成、値付けを含めた開発
○清水 健二¹, 伊藤 元雄¹, 浜田 盛久¹, 高橋 栄一² (¹海洋研究開発機構, ²東京工業大学)

夜間集会

18:15-18:00 夜間集会

「学会の将来について考える —来年のイベントから長期展望まで—」
1) 学会将来計画「地球化学会の夢ロードマップ(2050年に向けて)」
2) ゴールドシュミット2016に向けて
3) 学会の将来に向けた自由討論

【D会場】

G02 古気候・古環境解析の地球化学

コンピーナー：中塚武・入野智久・横山祐典・渡邊剛・原田尚美

14:30 1D11

樹木年輪酸素同位体比が記録する気候変動
○栗田 直幸¹, 中塚 武² (¹名古屋大学大学院, ²総合地球環境学研究所)

14:45 1D12

水月湖堆積物が記録するアジアダスト輸送の十年スケール変動
○長島 佳菜¹, 鈴木 克明², 入野 智久³, 原 由香里¹, 多田 隆治⁴, 中川 毅⁵ (¹海洋研究開発機構, ²東京大学大学院, ³北海道大学大学院, ⁴九州大学, ⁵立命館大学)

15:00 1D13

東シナ海表層海水酸素同位体比への揚子江河川水の影響評価
○入野 智久¹, 吉川 久幸², 根本 和宏², Luo Chao³, He Mengying³, Zheng Hongbo³, 齋藤 京太⁴, 鈴木 克明⁴, 多田 隆治⁴ (¹北海道大学, ²気象庁, ³Nanjing Normal University, ⁴東京大学)

15:15 1D14

鉄安定同位体を利用した海洋沈降粒子中の鉄の起源解析
○浅原 良浩¹, 竹内 晟也¹, 安田 友紀¹, 原田 尚美², 小野寺 丈尚太郎², 長島 佳菜², 申 基澈³ (¹名古屋大学大学院, ²海洋研究開発機構, ³総合地球環境学研究所)

15:30-15:45 休憩(15分)

15:45 1D15

珪藻海風化作用による、マンガンクラストNd同位体比の新解釈：ケイ酸—CO₂システムの変化が氷期—間氷期サイクルを引き起した
○赤木 右¹ (¹九州大学理学研究院)

16:00 1D16

完新世の極域氷床融解と気候変動
○横山 祐典¹ (¹東京大学)

16:15-16:30 1D17

日本海北海道沖の堆積物の陸上植物バイオマーカー分析：古植生指標の検討
○青柳 治寛¹, 沢田 健¹, 風呂田 郷史¹, 入野 智久¹, 五十嵐 八枝子² (¹北海道大学大学院, ²北方圏古環境研究室)

第 1 日目 (9 月 16 日) 口頭発表 午後

【E会場】

G05 海洋における微量元素・同位体 (2)

コンピーナー：小畑元・堀川恵司・田副博文・高野祥太郎

14:30 1E10

東シナ海表層水のBa/Ca比と塩分の関係

○小平 智弘¹,堀川 恵司¹,脇坂 恵都子¹,張 勁¹,村山 雅史² (¹富山大学,²高知大学)

14:45 1E11

浮遊性有孔虫の酸素同位体を用いた海水温復元: 生息水深の季節変化やvital effectは同位体比にどのような影響を与えるか?

○大澤 里美¹,黒柳 あずみ²,鈴木 淳³,川幡 穂高¹ (¹東京大学,²東北大学,³産業技術総合研究所)

15:00 1E12

北部北太平洋における親生物元素および微量金属元素の堆積過程

○南 秀樹¹,高松 将輝¹,鈴木 麻彩実¹,小畑 元²,中口 譲³ (¹東海大学,²東京大学,³近畿大学)

15:15 1E13

日本海における生物活性微量元素の分布および輪廻挙動に関する研究

○鈴木 博貴¹,中西 亮介²,坂本 敦史²,下里 義泰²,中口譲³,南 知晴³,宗林 由樹³ (¹近大院総合理工,²近大理工,³京都大化研)

15:30-15:45 休憩(15分)

G15 海洋化学・大気化学 (全般)

コンピーナー：石橋純一郎・下島公紀・大木淳・亀山宗彦・野尻幸宏

15:45 1E14

凝固点降下度の計算—NaCl(aq)とKCl(aq)について

○澁江 靖弘¹ (¹兵庫教育大学)

16:00 1E15

炭酸塩に関する希土類元素分配要因解明に向けた希土類炭酸塩の溶解度積の測定

○岸部 克也¹,寺門 靖高¹ (¹神戸大学大学院)

16:15 1E16

凝集に支配される珪藻ケイ酸殻の溶解速度論による溶存ケイ酸濃度極大深度の説明

○西野 博隆¹,赤木 右¹ (¹九州大学)

16:30 1E17

沿岸海域における珪藻ブルーム後の有機物分解に伴う有機コウ素ガスの発生と大気への供給

○清水 悠作¹,大木 淳之¹,久万 健志¹,大西 広二¹,亀井 佳彦²,小林 直人² (¹北海道大学大学院,²北海道大学)

16:45 -17:00 休憩(15分)

17:00 1E18

海洋生態系一同位体分子種モデルを用いた西部北太平洋におけるN₂O生成プロセスの解明

○吉川 知里¹,笹井 義一¹,本多 牧生¹,眞壁 明子¹,豊田 栄²,吉田 尚弘²,小川 奈々子¹,大河内 直彦¹ (¹海洋研究開発機構,²東京工業大学)

17:15 1E19

南大洋における深層循環の回復と全球的な深層溶存酸素の回復: GCMを用いた長期(2000年)温暖化実験

○山本 彬友¹,阿部 彩子¹,重光 雅仁²,岡 顕¹,高橋 邦生²,大垣内 るみ²,山中 康裕³ (¹東京大学,²海洋研究開発機構,³北海道大学大学院)

17:30 1E20

環境中の松葉の¹⁴C濃度経年変動とSuess効果

○中村 俊夫¹,太田 友子¹ (¹名古屋大学)

17:45-18:00 1E21

海底下CCSにおける漏洩CO₂の検知・モニタリング

○下島 公紀¹ (¹九州大学)

第2日目（9月17日） 口頭発表 午前

【A会場】

G09 生物と有機物の地球化学

コンピーナー：瀬戸爾美・川口慎介・沢田健・大河内直彦

12:00-12:15 2A13

現生植物の熱熱成実験による抵抗性高分子の熱成変化の検討

○宮田 遊磨¹, 沢田 健¹, 中村 英人¹ (¹北海道大学)

08:45 2A01 招待講演

熱水噴出孔下に存在する生命圏の限界

○柳川 勝紀¹, 井尻 暁², Anja Breuker³, 酒井 早苗², 三好 陽子¹, 川口 慎介², 野口 拓郎¹, 平井 美穂², Axel Schippers³, 石橋 純一郎¹, 高木 善弘², 布浦 拓郎², 高井 研⁴ (¹九州大学大学院, ²海洋研究開発機構, ³ドイツ連邦地球科学天然資源研究所, ⁴高知大学)

09:15 2A02

アラニンの室温における圧力誘起ペプチド化

○藤本 千賀子¹, 篠崎 彩子², 三村 耕一², 西田 民人², 後藤 弘匡¹, 小松 一生¹, 鍵裕之¹ (¹東京大学, ²名古屋大学)

09:30 2A03

メタン生成古細菌を培養し微生物起源メタンが呈する炭素・水素安定同位体比の特徴を明らかにした上でこれを文献値と比較したところ一致しなかった
○川口 慎介¹, 奥村 知世¹, 齊藤 弥生¹, 松井 洋平¹, 高井 研¹, 井町 寛之¹ (¹海洋研究開発機構)

09:45 2A04

南部マリアナ前弧で発見されたシロウリガイ群集を支える化学エネルギーの起源

○大西 雄二¹, 松本 航輝², 山中 寿朗¹, 池原 実³, 小原 泰彦⁴ (¹岡山大学大学院, ²岡山大学, ³高知大学, ⁴海上保安庁)

10:00 2A05

第一奄美海丘の周辺に生息するシンカイヒバリガイの炭素・窒素・硫黄の同位体組成

○雨宮 柚衣¹, 田中 健太郎¹, Yama Tomonaga², 白井 厚太郎¹, 石田 章純¹, 鹿児島 涉悟¹, 佐野 有司¹ (¹東京大学大気海洋研究所, ²ETH, Switzerland)

10:15 2A06

北太平洋亜寒帯域（K2サイト）におけるクロロフィルの窒素同位体比

○小川 奈々子¹, 吉川 知里¹, 大河内 直彦¹ (¹海洋研究開発機構)

10:30 2A07

炭素・窒素安定同位体比による富山湾沿岸生態系への陸域からの影響把握

○浦沢 知紘¹, 張 勁², 稲村 修³ (¹富山大学, ²富山大学, ³魚津市教育委員会)

10:45 2A08

光合成色素分析により明らかにする高塩下の海洋環境

○伊左治 雄太¹, 川幡 穂高¹, 黒田 潤一郎², 吉村 寿紘¹, Francis J. Jimenez-Espejo², Stefano Lugli³, Vinicio Manzi⁴, Marco Roveri⁴, 小川 奈々子², 大河内 直彦² (¹東京大学, ²海洋研究開発機構, ³Universita degli Studi di Modena e Reggio Emilia, ⁴University of Parma)

11:00 2A09

堆積岩中の芳香族ステロイド組成を用いた海洋基礎生産者の復元

○安藤 卓人¹, 沢田 健², 高嶋 礼詩³, 西 弘嗣³ (¹北海道大学大学院, ²北海道大学, ³東北大学)

11:15 2A10

藻類バイオ燃料と藻類脂質に直接関連した化石燃料の研究

○沢田 健¹ (¹北海道大学)

11:30 2A11

バルマ藻培養試料の熱熱成実験による生体脂質の熱成過程の検討

○阿部 涼平¹, 沢田 健¹, 加納 千紗都¹, 吉川 伸哉², 桑田 晃³ (¹北海道大学大学院, ²福井県立大学, ³東北区水産研究所)

11:45 2A12

ハプト藻 Isochrysidaceae 科 Tisochrysis 属の培養温度とアルケノン組成の関係

○中村 英人¹, 沢田 健¹, 新家 弘也², 鈴木 石根², 白岩 善博² (¹北海道大学大学院, ²筑波大学)

第2日目(9月17日) 口頭発表 午前

【B会場】

G12 最先端計測・同位体化学の地球化学及び境界領域への応用

コンビーナー：平田岳史¹・武蔵正明²・横山哲也³・大野剛⁴
服部祥平¹・藤井俊行¹・南雅代¹

08:45 2B01

蛍光分光XAFS法によるマンガングラストや鉄隕石中の白金の化学状態解析
○高橋 嘉夫¹、柏原 輝彦²、渡辺 勇輔³、寺田 靖子³、新田 清文³、関澤 央輝⁴、
宇留賀 朋哉¹ (¹東京大学,²海洋研究開発機構,³JASRI/SPRING-8,⁴電気通信大
学)

09:00 2B02

高精度・高解像度でのマイワシ耳石の回遊履歴推定 - IRMSを用いた炭酸塩の
高解像度解析の限界に挑む -
○石村 豊穂¹、坂井 三郎²、鐵 智美¹、尾田 昌紀³ (¹茨城工業高等専門学校,²海洋
研究開発機構,³鳥取県)

09:15 2B03

硫化カルボニル微生物分解時の硫黄同位体分別とその大気化学への応用
○亀崎 和輝¹、服部 祥平¹、小川 貴弘²、石野 咲子³、豊田 栄¹、加藤 広海³、片山 葉
子²、吉田 尚弘⁴ (¹東京工業大学大学院,²東京農工大学大学院,³東北大学大学院,⁴
東京工業大学大学院・地球生命研究所)

09:30 2B04

超高空間分解能イメージングによる揮発性元素定量分析法の確立:メルト包有
物への適用
○伊藤 元雄¹、清水 健二¹、牛久保 考行¹、小澤 恭弘²、岩森 光¹ (¹海洋研究開
発機構,²東京工業大学)

09:45 2B05

レーザーアブレーション-ICP質量分析法による定量的イメージングの検討
○横納 好岐¹、平田 岳史¹、鈴木 敏弘² (¹京都大学大学院,²東京工業大学大
学院)

10:00 2B06

硫酸・硝酸の酸素同位体異常($\Delta^{17}\text{O}$): ハイスループット自動分析とその応用
○服部 祥平¹、Savarino Joel²、石野 咲子³、吉田 尚弘¹ (¹東京工業大
学,²Laboratoire de Glaciologie et Géophysique de l'Environnement)

10:15 2B07

植物中の自然同位体トレーサーを用いた硝酸の起源推定および同化過程の解
析
○池谷 康祐¹、安藤 健太¹、中川 書子¹、角皆 潤¹、小松 大祐¹、柴田 英昭²、福澤 加
里部² (¹名古屋大学,²北海道大学)

10:30 2B08

古海洋プロキシとしての海底堆積物中モリブデン、タングステン安定同位体
比分析法の開発
○辻阪 誠¹、高野 祥太郎¹、村田 レナ¹、平田 岳史²、宗林 由樹¹ (¹京都大学化学研
究所,²京都大学大学院理学研究科)

10:45 2B09

塩素同位体比に関する分子軌道法計算と実験測定
○石川 厚¹、成田 進¹、山村 舞¹、竹内 あかり¹、大木 寛¹、吉野 和夫¹ (¹信州
大学)

11:00 2B10

ICP-MS/MSによる高感度極微量放射性同位体分析法の開発と環境放射能研究
への応用
○大野 剛¹、廣野 睦¹、齋藤 陽介¹、村松 康行¹ (¹学習院大学)

11:15 2B11

吸着および沈殿時のセリウム安定同位体分別における溶存錯体種の影響
○中田 亮一¹、田中 雅人²、谷水 雅治³、高橋 嘉夫² (¹東京工業大学,²東京大学大
学院,³関西学院大学大学院)

11:30 2B12

サンゴ骨格のカルシウム同位体分別の変動要因について
○井上 麻夕里¹、Nikolaus Gussone²、古賀 奏子³、岩瀬 晃啓³、鈴木 淳⁴、酒井
一彦¹、川幡 穂高⁵ (¹岡山大学大学院,²ミュンスター大学,³琉球大学,⁴産業技術
総合研究所,⁵東京大学)

11:45-12:00 2B13

単一花崗岩体におけるマグマ進化とSr安定同位体分別
○若木 重行¹、若杉 勇輝²、谷岡 裕大²、石川 剛志¹、壺井 基裕² (¹海洋研究開
発機構,²関西学院大学)

【C会場】

S02 鉄の地球微生物学と地球化学

コンビーナー：光延聖¹・加藤真悟²・牧田寛子³

08:40 主旨説明

08:45 2C01

放射光源X線吸収分光法による分子スケールスベシエーションを駆使した微
生物-鉄-鉱物(岩石)相互作用研究
○光延 聖¹ (¹静岡県立大学)

09:00 2C02

海洋環境での酸化鉄被膜形成に関わる微生物
○牧田 寛子¹、田中 英美子²、布浦 拓郎¹、平井 美穂¹、阿部 真理子¹、鈴木 優美²、
関野 優也²、菊池 早希子¹、光延 聖³、高橋 嘉夫⁴、高井 研¹ (¹海洋研究開発機構,²
神奈川工科大学,³静岡県立大学大学院,⁴東京大学大学院)

09:15 2C03 招待講演

微好気性鉄酸化バクテリアの生理・分布・ゲノム・排泄物と、その生物地球
化学的意義
○加藤 真悟¹ (¹デラウェア大学)

09:45 2C04 招待講演

導電性鉄鉱物との電子授受に基づく微生物代謝
○加藤 創一郎¹ (¹産業技術総合研究所)

10:15 2C05

淡水性ラン藻類Microcystis aeruginosaによる鉄摂取速度論
○藤井 学¹、T. David Waite² (¹東京工業大学,²ニューサウスウェールズ大)

10:30 2C06

二次鉱物の被膜による微生物生成水酸化鉄の生物利用性の低下
○菊池 早希子¹、牧田 寛子¹、白石 史人²、今野 祐多¹、高橋 嘉夫³ (¹海洋研究開発
機構,²広島大学,³東京大学)

10:45 2C07 招待講演

鉄酸化細菌がつくる酸化鉄の構造と物理化学的解析
○鈴木 智子¹、橋本 英樹²、久能 均³、高田 潤¹ (¹日本女子大学,²工学院大学,³
岡山大学)

11:15 2C08 招待講演

鉄質温泉堆積物に見られる縞状組織の生成プロセス
○高島 千鶴¹ (¹佐賀大学)

11:45-12:00 2C09

鉄安定同位体を用いた高次海洋魚の生体内鉄代謝評価
○山方 優子¹、田中 祐樹¹、田辺 信介²、板井 啓明²、平田 岳史¹ (¹京都大学大
学院,²愛媛大学)

第2日目（9月17日） 口頭発表 午前

【D会場】

G13 原発事故で放出された放射性核種の環境動態

コンピーナー：田中万也・高橋嘉夫・本多牧生・福士圭介

08:45 2D01

福島第一原発事故で放出した放射性粒子の特徴

○佐藤 志彦¹, 末木 啓介¹, 笹 公和¹, 小野 貴大², 飯澤 勇信², 阿部 善也², 中井 泉², 足立 光司³, 五十嵐 康人³ (¹筑波大学大学院, ²東京理科大学, ³気象研究所)

09:00 2D02

2013年に福島県浜通り地域に沈着した放射性セシウム含有粒子の特徴

○山口 紀子¹, 藤原 英司¹, 井倉 将人¹, 浅野 眞希², 足立 光司³, 小暮 敏博⁴ (¹農業環境技術研究所, ²筑波大学, ³気象研究所, ⁴東京大学大学院)

09:15 2D03

福島県土壌試料におけるウラン同位体比

○貴雅 朝子¹, サフー サラタ クマール¹, 中井 俊一², 新江 秀樹¹ (¹放射線医学総合研究所, ²東京大学地震研究所)

09:30 2D04

福島第一原発周辺に分布する粘土鉱物からのセシウム脱離挙動

○朝日 一成¹, 福士 圭介², 青井 裕介¹, 富原 聖一³ (¹金沢大学大学院, ²金沢大学, ³ふくしま海洋科学館)

09:45 2D05

雲母系粘土鉱物に対する収着状態の異なるセシウムの脱離速度の評価

○室田 健人¹, 斉藤 拓巳¹, 田野井 慶太郎¹, 寺井 隆幸¹ (¹東京大学)

10:00 2D06

汚染土壌からの放射性セシウム脱離に対する低分子量有機物の影響

○山崎 信哉¹, 宇都宮 聡², 末木 啓介¹ (¹筑波大学, ²九州大学大学院)

10:15 2D07

樹皮からのセシウム吸収およびその化学形態

○田中 万也¹, 高橋 嘉夫² (¹広島大学, ²東京大学大学院)

10:30 2D08

福島第一原子力発電所事故から3年間の森林環境中における放射性セシウム移行状況について

○加藤 弘亮¹, 恩田 裕一¹ (¹筑波大学)

10:45 2D09

福島事故起源の放射性物質の陸域から海洋への移行

○恩田 裕一¹, 谷口 圭輔¹ (¹筑波大学)

11:00 2D10

福島県東部の河川流域における土砂流送と空間線量率の変化

○Alex Malins¹, 佐久間 一幸¹, 操上 広志¹, 町田 昌彦¹, 北村 哲浩¹ (¹日本原子力研究開発機構)

11:15 2D11

河川・汽水・海洋の系における放射性セシウムの移行過程：福島県松川浦を例として

○神林 翔太¹, 張 勁¹, 柴沼 成一郎², 成田 尚史³ (¹富山大学, ²シーベック, ³東海大学)

11:30 2D12

福島原発起源ヨウ素129の陸域から海洋への移行研究

○松中 哲也¹, 笹 公和¹, 末木 啓介¹, 恩田 裕一¹, 石丸 隆², 谷口 圭輔³, 脇山 義史⁴, 高橋 努¹, 松村 万寿美¹, 松崎 浩之⁵ (¹筑波大学, ²東京海洋大学, ³福島県, ⁴福島大学, ⁵東京大学)

11:45-12:00 2D13

福島第一原発事故により海洋に放出されたトリチウムの直接漏洩量の推定

○高畑 直人¹, 熊本 雄一郎², 山田 正俊², 佐野 有司¹ (¹東京大学, ²海洋研究開発機構, ³弘前大学)

【E会場】

G04 鉱物境界面の地球化学：水-岩石相互作用

コンピーナー：福士圭介・大竹翼・斎藤拓巳・鈴木庸平
柏原輝彦・高橋嘉夫

09:00 2E01

微量元素の濃度や化学状態に基づくパライト1粒を用いたEh-pH計の開発の試み

○徳永 紘平¹, 高橋 嘉夫² (¹広島大学, ²東京大学)

09:15 2E02 招待講演

ペルム紀末大量絶滅期の還元環境における微量元素の挙動

○高橋 聡¹, 山崎 慎一², 小川 泰正³, 木村 和彦⁴, 吉田 武義⁵, 土屋 範芳⁵, 中田 亮一⁶, 高橋 嘉夫¹ (¹東京大学, ²東北大学, ³秋田大学, ⁴宮城大学, ⁵東北大学, ⁶東京工業大学)

09:40 2E03

花崗岩深部におけるウランの物質移行特性の長期変遷

○鈴木 庸平¹ (¹東京大学大学院)

09:55 2E04

花崗岩の化学的風化に関する実験的研究

○丹羽 萌子¹, 寺門靖高¹ (¹神戸大学大学院)

10:10 2E05

酸化物表面へのアミノ酸の吸着

○大西 浩之¹, 福士 圭介² (¹金沢大学大学院, ²金沢大学)

10:25-10:35 休憩(10分)

10:35 2E06

6族元素の鉱物への吸着構造に基づく同位体分別の解析

○田中 雅人¹, 有賀 大輔², 柏原 輝彦³, 高橋 嘉夫¹ (¹東京大学大学院, ²広島大学大学院, ³海洋研究開発機構)

10:50 2E07 招待講演

パーミキュライト及び風化黒雲母懸濁液のナノ-メソ構造とセシウムイオンの吸着挙動 -X線・中性子小角散乱法で明らかにできること-

○元川 竜平¹, 遠藤 仁², 横山 信吾³, 西辻 祥太郎⁴, 矢板 毅¹, 小林 徹¹, 鈴木 伸一¹ (¹日本原子力研究開発機構, ²高エネルギー加速器研究機構, ³電力中央研究所, ⁴山形大学)

11:15 2E08

土壌鉱物への鉛吸着の予測モデル：鉄酸化物不在下での鉛のfate

○牛山 智樹¹, 福士圭介² (¹金沢大自然科学, ²金沢大環日研セ)

11:30 2E09

マレーシアの汚染河川における鉄・鉛同位体と地球化学モデリングを用いた環境影響評価

○伊藤 茜¹, 大竹 翼², 安楽 総太郎¹, 申 基澈², Kamar Shah Ariffin³, Fei Yee Yeoh⁴, 佐藤 努¹ (¹北海道大学大学院工学院, ²総合地球環境学研究所, ³Universiti Sains Malaysia)

11:45-12:00 2E10

有機配位子による難溶解性酸化物の溶解現象

○斉藤 拓巳¹ (¹東京大学)

第2日目(9月17日) 午後
総会・特別集会・受賞講演会

【G会場】

14:30 総会(授賞式)

15:30 特別集会

15:50-16:00 休憩(10分)

～受賞記念講演～

16:00 2G01 奨励賞 (座長 吉田尚弘)

硫化カルボニルの硫黄同位体情報を用いた成層圏硫酸エアロゾルの生成過程に関する研究

○服部 祥平¹ (¹東京工業大学)

16:25 2G02 奨励賞 (座長 杉浦直治)

始原的微惑星の集積時期の決定

○藤谷 渉¹ (¹茨城大学)

16:50 2G03 奨励賞 (座長 小林憲正)

太陽系小天体における有機物の形成と進化過程の研究

○癸生川 陽子¹ (¹横浜国立大学大学院)

17:15-17:20 休憩(5分)

17:20 2G04 奨励賞 (座長 益田晴恵)

ヒ素などの有害元素の環境中での挙動に関する研究

○板井 啓明¹ (¹愛媛大学)

17:45 2G05 学会賞 (座長 清水 洋)

XAFS法などによる化学種解析に基づく環境地球化学的研究

○高橋 嘉夫¹ (¹東京大学)

第3日目（9月18日） 口頭発表 午前

【A会場】

G08 宇宙化学・惑星化学 (1)

コンピーナー：寺田健太郎・奈良岡浩・冨本尚義

08:45 3A01 招待講演

星・惑星系形成領域の星間化学：モデルとALMA観測

○相川 祐理¹（¹筑波大学）

09:15 3A02

アンモニアの粒子表面への吸着に伴う窒素同位体分別

○菅原 春菜¹,高野 淑識¹,小川 奈々子¹,力石 嘉人¹,大河内 直彦¹（¹海洋研究開発機構）

09:30 3A03

Murchison隕石中のアルキルビリジン異性体分布と炭素安定同位体比

○大澤 祐太郎¹,奈良岡 浩¹（¹九州大学）

09:45 3A04

隕石有機物におけるアルキル化環状同族体化合物

○奈良岡 浩¹（¹九州大学）

10:00 3A05

無水雪微隕石と含水雪微隕石に含まれる有機物の特徴比較

○萩田 ひかる¹,野口 高明²,伊藤 正一²,中村 智樹¹,光成 拓也⁵,大久保 彰⁶,岡崎 隆司⁶,橘 省吾⁷,寺田 健太郎⁸,海老原 充⁸,永原 裕子⁹（¹大阪大学,²九州大学,³京都大学,⁴東北大学,⁵茨城大学,⁶東京大学,⁷北海道大学,⁸首都大学東京）

10:15 3A06

木星トロヤ群小惑星探査:太陽系最後のフロンティアを目指して

○癸生川 陽子¹,中村 良介²,青木 順³,矢野 創⁴,岡田 達明⁴,森 治⁴,岩田 隆浩⁴,松浦 周二⁵,津村 耕司⁶,白井 文彦⁷,木下 大輔⁸,パトリック リカフィカ⁹,吉田 二美¹⁰（¹横浜国立大学,²産総研,³大阪大学,⁴宇宙航空研究開発機構,⁵関西学院大学,⁶東北大学,⁷東京大学,⁸台湾中央大学,⁹近畿大学,¹⁰国立天文台）

10:30-10:45 休憩(15分)

10:45 3A07

AGB星He層内で生成されるsプロセス核種同位体の温度・中性子密度依存性とプレソーラーSiCとの比較2

○寺田 健太郎¹,河井 洋輔¹,岩本 信之²,青木 和光³,吉田 敬⁴（¹大阪大学,²原子力開発機構,³国立天文台,⁴京都大学）

11:00 3A08

完全分解法を用いた炭素質コンドライト全岩の高精度Nd同位体比測定

○深井 稜汰¹,横山 哲也¹,鏡味 沙耶¹（¹東京工業大学）

11:15 3A09

局所サンプリングによるCBコンドライト中のメタル相におけるオスミウム同位体分析

○中西 奈央¹,横山 哲也¹,白井 寛裕¹,岩森 光²（¹東京工業大学,²海洋研究開発機構）

11:30 3A10

普通コンドライト隕石のバリウム同位体組成

○三澤 啓司¹,横山 立憲²,米田 成一²（¹国立極地研究所,²国立科学博物館）

11:45-12:00 3A11

激しい水質変成を伴う狭山隕石（CM2のコンドリュールにおけるアルカリ元素の再分配

○日高 洋¹,樋口 卓哉¹,米田 成一²（¹広島大学大学院,²国立科学博物館）

【B会場】

S03 大気水圏光化学反応過程 (1)

コンピーナー：佐久川弘・河村公隆・新垣雄光・渡辺幸一

09:00 3B01 招待講演

対流圏大気のOHラジカル計測と酸化過程の理解

○金谷 有剛¹（¹海洋研究開発機構）

09:30 3B02

天然水および大気液相中光化学反応における活性酸素種の役割

○佐久川 弘¹（¹広島大学大学院）

09:45 3B03

瀬戸内海において光化学的に生成した活性酸素種間の相互作用

○Adebanjo Jacob Anifowose¹,竹田 一彦¹,佐久川 弘¹（¹広島大学大学院）

10:00 3B04

窒素飽和した森林から流出する渓流水から光化学的に生成するヒドロキシルラジカルの発生源の定量評価

○智和 正明¹,東 直子¹,大槻 恭一¹,兒玉 宏樹²,宮島 徹²,竹田 一彦³,佐久川 弘³（¹九州大学,²佐賀大学大学院,³広島大学大学院）

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 3B05 招待講演

海水成分存在下における多環芳香族炭化水素の光化学反応過程とその生成物

○三小田 憲史¹,栗林 知徳²,米原 敬之²,関口 和彦³,野見山 桂⁴,篠原 亮太⁴（¹埼玉大学大学院,²熊本県立大学大学院,³愛媛大学,⁴熊本県立大学）

11:00 3B06

琵琶湖水中の溶存有機物の吸収蛍光特性と光脱色

○早川 和秀¹,杉山 裕子²,Shoji D. Thottathil³,中野 伸一³（¹滋賀県琵琶湖環境科学センター,²岡山理科大学,³京都大学）

11:15 3B07

琵琶湖における溶存態鉄(II)・有機物の動態と光反応

○丸尾 雅啓¹,大田 啓一¹,早川 和秀²（¹滋賀県立大学,²滋賀県琵琶湖環境科学センター）

11:30 3B08

河川水・海水における溶存有機物中のフェノール性水酸基の測定と環境中での動態

○竹田 一彦¹,森木 慎¹,大城 和歌子¹,佐久川 弘¹（¹広島大学）

11:45-12:00 3B09

瀬戸内海における農薬の光分解と生分解過程および動態解析

○Chikumbusko Chiziwa Kaonga¹,竹田 一彦¹,佐久川 弘¹（¹広島大学大学院）

第3日目(9月18日) 口頭発表 午前

【C会場】

G10 水圏や土壌圏の環境地球化学 (1)

コンビーナー：高橋嘉夫・板井啓明・光延聖・益田晴恵・田中雅人

09:00 3C01 基調講演

フューチャーアースと多項目水質マップ作り : 水圏・土壌圏環境地球化学の基盤形成

○中野 孝教¹ (¹総合地球環境学研究所)

09:30 3C02

ヒマラヤのエアワディ川流域の化学風化量の再評価: 炭素循環にどのような役割を果たすのか

○真中 卓也¹, 大谷 壮矢¹, 稲村 明彦², 鈴木 淳², Thura Aung³, Raywadee Roachananakan⁴, 石輪 健樹¹, 川幡 穂高¹ (¹東京大学, ²産業技術総合研究所, ³Myanmar Engineering Society, ⁴Mahidol University)

09:45 3C03

バングラデシュのガンジス-ブラマプトラ-メグナ川水系の河川水と地下水における $\delta^{88}\text{Sr}$ ・ $^{87}\text{Sr}/^{86}\text{Sr}$ 組成

○吉村 寿紘¹, 若木 重行², 川幡 穂高¹, 真中 卓也¹, 鈴木 淳³, ザキール ホセイン⁴, 黒田 潤一郎², 石川 剛志², 大河内 直彦² (¹東京大学, ²海洋研究開発機構, ³産業技術総合研究所, ⁴ジョシュール科学技術大学)

10:00 3C04

陸上微生物が形成する炭酸カルシウムの炭素・酸素同位体比変動

○野田 典広¹ (¹基礎地盤コンサルタンツ株式会社)

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 3C05

天野川の塩基性化に関する研究

中口 譲¹, 〇池田 善紀², 濱屋 心¹, 朝倉 知也¹ (¹近大理工, ²近大院総合理工)

10:45 3C06

大阪府の北摂地域における河川中のヒ素と関連要素の硫化物起源

○EVEN Emilie¹, 益田 晴恵¹, 柴田 崇弘¹, 千葉 仁², 平田 岳史³ (¹大阪市立大学, ²岡山大学, ³京都大学)

11:00 3C07

大阪平野深部における高塩濃度地下水の起源

○新谷 毅¹, 益田 晴恵¹, 三田村 宗樹¹, 根本 達也¹, 岡崎 香生里¹ (¹大阪市立大学大学院)

11:15 3C08

富士山周辺における湧水水中的栄養塩特性

○萩原 直樹¹, 千賀 康弘¹ (¹東海大学海洋学部)

11:30 3C09

富栄養湖沼千葉県手賀沼におけるメタン収支

○時枝 隆之¹, 谷口 雄哉¹, 葛西 眞由子¹, 伊波 はるな¹, 小菅 瞭吾¹, 中山 典子² (¹気象庁, ²東京大学)

11:45-12:00 3C10

自然水および下水処理水中の微量金属の溶解性に及ぼす溶存有機物の分子特性の影響

○菊地 哲郎¹, 藤井 学¹, 吉村 千洋¹ (¹東京工業大学大学院)

【D会場】

G06 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環

コンビーナー：早稲田周・坂田将・鈴木徳行・佐野有司

08:45 3D01 基調講演

オスミウム同位体組成と微細組織からみた天然多結晶ダイヤモンド(カルボナド)の起源_地殻炭素の地球深部へのリサイクル

○鍵 裕之¹, 白石 智子¹, 角野 浩史¹, 仙田 量子², 鈴木 勝彦², 浅野 奈津子³, 大藤弘明³ (¹東京大学大学院, ²海洋研究開発機構, ³愛媛大学)

09:15 3D02

西太平洋の海底熱水鉱床鉱物の気体地球化学

○佐野 有司¹, 大城 光洋¹, 鹿児島 涉悟¹, 藍 徳芳², 高畑 直人¹, 石橋 純一郎² (¹東京大学, ²中央研究院, ³九州大学)

09:30 3D03

地球深部における芳香族炭化水素の化学進化

○篠崎 彩子¹, 三村 耕一¹, 井上 徹², 小松 一生³, 後藤 弘匡³, 鍵 裕之³ (¹名古屋大学, ²愛媛大学, ³東京大学)

09:45 3D04

秋田県鮎川油ガス田における女川層タイトオイルの有機地球化学

○早稲田 周¹, 奥村 文章¹, 横井 悟¹, 辻 隆司¹ (¹石油資源開発株式会社)

10:00 3D05

テルペノイド類の加水熱分解生成物の特徴とその応用

○朝比奈 健太¹, 鈴木 徳行¹ (¹北海道大学)

10:15-10:30 休憩(15分)

10:30 3D06

2-および3-ヒドロキシアキオールの立体選択的合成と水酸基の絶対立体配置の推定

○山内 敬明¹ (¹九州大学)

10:45 3D07 招待講演

海底深部の非在来型炭化水素資源環境における生物地球化学的炭素循環とその環境規定要因

○稲垣 史生¹, Kai-Uwe Hinrichs² (¹海洋研究開発機構, ²ドイツ・プレーメン大学)

11:15 3D08

熊野海盆海底泥火山における深部流体・ガスの供給と起源および生物地球化学プロセスについて

○井尻 暁¹, 稲垣 史生¹ (¹海洋研究開発機構)

11:30 3D09

水溶性天然ガス田においてメタノール分解メタン生成を担うメタン生成アーキアの分離同定

○持丸 華子¹, 玉木 秀幸¹, 吉岡 秀佳¹, 坂田 将¹, 鎌形 洋一¹ (¹産業技術総合研究所)

11:45-12:00 3D10

沿岸域地下水帯水層における塩濃度変化が生物的メタン生成に与える影響

○片山 泰樹¹, 持丸 華子¹, 坂田 将¹, 井川 怜欧¹, 越谷 賢¹, 丸井 敦尚¹ (¹産業技術総合研究所)

第3日目(9月18日) 口頭発表 午後

【A会場】

G08 宇宙化学・惑星化学 (2)

コンピーナー：寺田健太郎・奈良岡浩・坂本尚義

14:30 3A12

全岩化学組成に基づいたタイプ7普通コンドライトの形成過程

○吉岡 拓真¹, 白井 直樹¹, 海老原 充¹ (¹首都大学東京大学院)

14:45 3A13

未分化天体への衝突による始原的エコンドライトの形成 - NWA 6704 隕石からの証拠 -

○日比谷 由紀¹, 飯塚 毅¹, 小澤 一仁¹, 山口 亮² (¹東京大学大学院, ²国立極地研究所)

15:00 3A14

地球型惑星における水の起源の解明:ユークライト隕石リン酸塩鉱物のU-Pb年代・水素同位体分析

○小池 みずほ¹, 飯塚 毅¹, 高畑 直人¹, 佐野 有司¹ (¹東京大学)

15:15 3A15

火星隕石TissintのPb同位体分析に基づいた火星マントル化学進化の解明

○森脇 涼太¹, 白井 寛裕¹, 横山 哲也¹, J. I. Simon², J. H. Jones² (¹東京工業大学, ²NASA-JSC)

15:30 3A16

Mn-Cr年代測定におけるanchorの見直し: D'Orbignyの結果について

○山下 勝行¹, 谷水 雅治², 米田 成一³, 富岡 尚敬⁴ (¹岡山大学, ²関西学院大学, ³国立科学博物館, ⁴海洋研究開発機構)

15:45 3A17

アパタイト結晶の水素拡散実験

○伊藤 正一¹, 橋口 未奈子², 東 佳徳¹, 坂田 周平¹, 平田 岳史¹, 坂口 勲³ (¹京都大学, ²宇宙航空研究開発機構, ³物質・材料研究機構)

16:00-16:15 3A18

火星隕石シャーゴットライトに含まれるバデレライトの衝撃によるU-Pb同位体系リセットの再検討

○海田 博司¹, 三澤 啓司¹, 新原 隆史² (¹国立極地研究所, ²東京大学)

【B会場】

S03 大気水圏光化学反応過程 (2)

コンピーナー：佐久川弘・河村公隆・新垣雄光・渡辺幸一

14:30 3B10 招待講演

大気中における有機エアロゾルの生成に係わる不均一反応

○秋元 肇¹ (¹国立環境研究所)

15:00 3B11

エアロゾル抽出液中のOHラジカル消失速度定数

○新垣 雄光¹, Cort Anastasio², 黒木 由貴子¹, 中島 仁美¹, 岡田 孝一郎¹, 小谷 有司¹, 半田 大士¹, 畦地 総太郎¹, 木村 太郎¹, 津波古 愛¹, 宮城 陽一¹ (¹琉球大学, ²カリフォルニア大学デビス校)

15:15 3B12

大気エアロゾル中での低分子ジカルボン酸の光化学的生成と分解: 室内実験

○河村 公隆¹ (¹北海道大学 低温科学研究所)

15:30 3B13

回転翼航空機を利用した富山県上空の過酸化水素濃度の測定

○渡辺 幸一¹, 矢地 千奈津¹, 西部 美雪¹, 道上 芹奈¹, 江田 奈希紗¹ (¹富山県立大学)

15:45-16:00 3B14

選択的蛍光プローブを用いた天然水中の脂質過酸化物の測定法の開発

○SUNDAY Oluwatoyin Michael¹, TAKEDA, Kazuhiro¹, SAKUGAWA Hiroshi¹ (¹広島大学大学院)

第3日目(9月18日) 口頭発表 午後

【C会場】

G10 水圏や土壌圏の環境地球化学 (2)

コンピーナー：高橋嘉夫・板井啓明・光延聖・益田晴恵・田中雅人

14:40 3C11 招待講演

土壌およびイネ根圏土壌の酸化還元特性とカドミウムの化学種

○橋本 洋平¹, 古屋 光啓¹, 山口 紀子² (¹東京農工大学,²農業環境技術研究所)

15:00 3C12

地球温暖化と樹木の立ち枯れの関係

○大森 禎子¹ (¹東邦大学)

15:15 3C13

マーシャル諸島マジュロ環礁の土壌中の元素の鉛直分布

○伊藤 理彩¹, 高橋 嘉夫¹, 為則 雄祐², 山口 徹³ (¹東京大学大学院,²高輝度光科学研究センター,³慶應義塾大学)

15:30-15:45 3C14

廃電気・電子製品野焼き土壌におけるダイオキシン類緑化合物と重金属類の相互作用

○藤森 崇¹, 板井 啓明², 後藤 哲智², Asante Kwado A³, 大塚 将成², 高橋 真², 田辺 信介² (¹京都大学,²愛媛大学,³CSIR Water Research Institute)

16:30 閉会式

【D会場】

G03 放射性廃棄物と地球化学

コンピーナー：日高洋・吉田英一・大貫敏彦・河田陽介

14:30 3D11 基調講演

Feコンクリーションに学ぶ地下環境中のFe(水)酸化物の長期挙動アナログ

○吉田 英一¹ (¹名古屋大学)

15:00 3D12

花崗岩の酸化還元緩衝能力は大規模地下施設の建設・操業に耐えられるか？

○岩月 輝希¹, 林田 一貴¹, 加藤 利弘¹, 宗本 隆志¹, 久保田 満¹ (¹日本原子力研究開発機構)

15:15 3D13

レーザーアブレーション試料導入-ICP質量分析法による炭酸塩鉱物の

U-Th-Pb年代測定技術の開発

○横山 立憲¹, 國分 (齋藤) 陽子¹, 村上 裕晃¹, 平田 岳史², 坂田 周平², 檀原 徹³, 岩野 英樹¹, 常 青¹, 木村 純一⁴ (¹日本原子力研究開発機構,²京都大学,³株式会社京都フィッション・トラック,⁴海洋研究開発機構)

15:30-16:00 3D14 招待講演

三浦半島西部沿岸域における地下水年代測定による地下水流動場の評価

○富岡 祐一¹, 長谷川 琢磨¹, 中田 弘太郎¹, 近藤 浩文¹, 吉村 公孝², 國丸 貴紀², 西尾 光² (¹一般財団法人電力中央研究所,²原子力発電環境整備機構)

第 1 日目 (9 月 16 日) ポスターセッション ポスター会場 7 号館 2 階 201・202

S01 鉱物資源の地球化学～陸上鉱床から海底鉱物資源まで～

1P01

CK14-O4 航海から採取された沖縄トラフ掘削コア試料中の硫化鉱物
○戸塚 修平¹, 堤 彩紀¹, 石橋 純一郎¹, 島田 和彦¹, 野崎 達生², 高谷 雄太郎³, 山崎 徹⁴, 高井 研², 熊谷 英憲², 川口 慎介², 宮崎 淳一², 正木 裕香², 久保 雄介², 鈴木 勝彦² (¹九州大学大学院,²海洋研究開発機構,³早稲田大学,⁴産業技術総合研究所)

1P02

熱水起源の硬石膏の年代測定の試み
○藤原 泰誠¹, 豊田 新¹, 内田 乃¹, 石橋 純一郎³ (¹岡山理科大学大学院,²岡山理科大学,³九州大学)

1P03

伊豆小笠原海域における熱水性マンガン酸化物の U- Th および U-Pb 年代決定の試み
○山岡 香子¹, Lin Ma², 白井 朗³ (¹産業技術総合研究所,²テキサス大学エルバソ校,³高知大学)

1P04

南鳥島 EEZ 東方に分布するマンガンノジュールの化学組成の特徴
○町田 嗣樹¹, 藤永 公一郎², 石井 輝秋³, 中村 謙太郎², 平野 直人⁴, 加藤 泰浩² (¹海洋研究開発機構,²東京大学,³深地地質研究所,⁴東北大学)

1P05

海洋酸性化が海底のマンガン団塊に与える影響
○Wang Quan¹, 眞中 卓也¹, 川幡 穂高¹, 山岡 香子², 鈴木 淳² (¹東京大学,²産業技術総合研究所)

G02 古気候・古環境解析の地球化学

1P12

シャコガイの高解像度塩素分析
○堀 真子¹, 佐野 有司², 石田 章純², 高畑 直人², 白井 厚太郎² (¹大阪教育大学,²東京大学)

1P13

造礁サンゴによるカルサイト骨格生成と温度依存性
○樋口 富彦¹, 白井 厚太郎¹, 湯山 育子², 目崎 拓真³ (¹東京大学,²国立遺伝学研究所,³黒潮生物研究所)

1P14

完新世の本州日本海側の石筍の流体包有物中の水素・酸素同位体分析
○大嶺 佳菜子¹, 植村 立¹, 三嶋 悟¹, 狩野 彰宏², 曾根 知実³, 柏木 健司⁴ (¹琉球大学,²九州大学大学院,³マリン・ワーク・ジャパン,⁴富山大学大学院)

1P15

沖縄県南大東島の石筍の炭酸カルシウムと流体包有物の酸素安定同位体比の変動
○三嶋 悟¹, 植村 立², 大嶺 佳菜子², 浅海 竜司², Chen Jin-Ping³, Chuan-Chou Shen⁴ (¹琉球大学大学院,²琉球大学,³台湾大学)

1P16

南極表層積雪とドームふじアイスコア中の硫黄同位体分析による硫酸エアロゾルの変動メカニズムの解析
○眞坂 昂佑¹, 植村 立¹, 福井 幸太郎², 飯塚 芳徳³, 松本 理誠¹, 植村 美希¹, 平林 幹啓⁴, 本山 秀明⁴ (¹琉球大学,²立山カルデラ砂防博物館,³北海道大学,⁴国立極地研究所)

1P17

Sr, Nd 同位体比と微量元素組成を用いた北極海カナダ海盆西部域の沈降粒子中の珪酸塩砕屑粒子の起源解析
○竹内 晟也¹, 浅原 良浩¹, 原田 尚美², 長島 佳菜², 小野寺 丈尚太郎² (¹名古屋大学,²海洋研究開発機構)

1P18

琵琶湖堆積物を用いた過去約 43 万年間の古環境解析
○越智 義和¹, 浦林 紀大², 鶴木 和義³, 山本 修一¹ (¹創価大学大学院,²創価大学工学部,³創価大学)

1P19

後期第四期カリフォルニア沖堆積物中バイオマーカーからみた植生変化
中國 正寿¹, 大力 千恵子¹, 中田 知里¹, 石渡 良志², 山本 修一¹ (¹創価大学大学院,²東京都立大学)

G01 大気微量成分の地球化学

1P06

大気汚染によりエアロゾルから供給される生物に利用可能な鉄
○伊藤 彰記¹, 時 宗波² (¹海洋研究開発機構,²バーミンガム大学)

1P07

降雨時の大気沈着中微量重金属元素濃度の変動
○齋藤 あゆみ¹, 佐名川 洋右¹, 山本 祐平¹, 今井 昭二¹ (¹徳島大学大学院)

1P08

ICP-MS 直接エアロゾル元素分析による野外観測の試み
○五十嵐 康人¹, 西口 講平², 萩野 浩之³, 木名瀬 健⁴, 北 和之⁴ (¹気象研究所,²ジェイ・サイエン・スラボ,³自動車研究所,⁴茨城大学)

1P09

モンゴルのウランバートル市におけるエアロゾルの化学組成とその起源推定
○福田 紘之¹, 山本 鋼志¹, 長谷川 精¹ (¹名古屋大学)

1P10

北陸地方における PM2.5 および黄砂粒子の動態―大陸起源および火山噴煙由来の影響―
佐藤 博仁¹, 竹内 皓基¹, 山崎 暢浩¹, 金 聖鈞¹, 渡辺 幸一¹ (¹富山県立大学)

1P11

北海道におけるエアロゾル中の水溶性イオンおよび微量金属元素の濃度変動
○南 秀樹¹, 中村 遼太¹, 張 雷¹, 的場 澄人², 小畑 元³ (¹東海大学,²北海道大学,³東京大学)

G07 マントル物質の化学とダイナミクス

1P20

ダブルスパイクと MC-ICP-MS を用いたモリブデン同位体分析の確立に向けて
○後藤 孝介¹, 下田 玄¹ (¹産業技術総合研究所)

1P21

CO₂-H₂O を含むカンラン岩の部分融解による炭酸塩メルト生成とリソ濃集の可能性
○小澤 亜耶¹, 小木曾 哲¹, 河上 哲生¹ (¹京都大学)

第 1 日目 (9 月 16 日) ポスターセッション ポスター会場 7 号館 2 階 201・202

G11 地球内部流体の化学

1P22

$\delta^{11}\text{B}$ - $\delta^7\text{Li}$ 値からみた三重県温泉水の地球化学的特徴

○谷水 雅治¹, 仲井 涼¹, 小林 裕基¹, 森 康則², 木村 浩之³, 青 常⁴, 中村 仁美⁴ (¹ 関西学院大学, ² 三重県保健環境研究所, ³ 静岡大学, ⁴ 海洋研究開発機構)

1P23

沖縄トラフ伊是名海海底熱水系における硫黄システマティクス

○川角 彰吾¹, 千葉 仁¹, 石橋 純一郎² (¹ 岡山大学, ² 九州大学)

1P24

富士山北麓地域の硫酸塩泉の起源および水質形成機構

○谷口 無我¹, 村松 容一², 千葉 仁³, 奥村 文章⁴, 大場 武¹ (¹ 東海大学, ² 東京理科大学, ³ 岡山大学, ⁴ 石油資源開発 (株))

1P25

地殻内流体のマッピング

○岩森 光¹, 中村 仁美¹, 上木 賢太¹, 渡辺 了² (¹ 海洋研究開発機構, ² 富山大学)

G14 初期地球と生命起源の地球化学

1P26

低地球周回軌道を利用した宇宙塵捕集とアミノ酸関連分子の宇宙曝露：たんばび計画実験開始報告

○小林 憲正¹, 三田 肇², 藪田 ひかる³, 癸生川 陽子¹, 中川 和道⁴, 今井 栄一⁵, 奥平 恭子⁶, 石橋 之宏⁷, 田端 誠⁸, 河合 秀幸⁸, 矢野 創⁹, 橋本 博文⁹, 山岸 明彦¹⁰, たんばび WG⁹ (¹ 横浜国立大学大学院, ² 福岡工業大学, ³ 大阪大学大学院, ⁴ 神戸大学, ⁵ 長岡技術科学大学, ⁶ 会津大学, ⁷ 九州大学大学院, ⁸ 千葉大学大学院, ⁹ 宇宙航空研究開発機構, ¹⁰ 東京薬科大学)

1P27

放射線照射によるアミノ酸の分解とエナンチオ比変化

○鈴木 菜摘¹, 高橋 淳一², 依田 功³, 加藤政博⁴, 癸生川 陽子¹, 小林 憲正¹ (¹ 横浜国立大学大学院, ² 大阪大, ³ 東工大, ⁴ 分子研)

1P28

模擬星間物質への粒子線照射生成物の分子構造分析

○榎本 真吾¹, 松田 知之¹, 福田 一志², 近藤 康太郎², 小栗 慶之², 吉田 聡³, 小林 憲正¹, 癸生川 陽子¹ (¹ 横浜国立大学大学院, ² 東工大, ³ 放医研)

1P29

循環型ガスフローラインを用いた隕石衝突蒸気雲内の固相-気相熱反応模擬実験

○小林 諒平¹, 古川 善博¹, 掛川 武¹ (¹ 東北大学)

1P30

アルカリ熱水噴気孔条件における硫化鉄鉱物への有機酸の吸着

○西井 明梨¹, 北台 紀夫², 時盛 ひとみ², 黒川顕² (¹ 東工大生命理工, ² 東工大地球生命研)

1P31

冥王代海洋地殻組成の推定とその含水融解実験：冥王代海洋・大陸地殻組成の解明に向けて

○近藤 望¹, 芳野 極², 小木曾 哲¹ (¹ 京都大学, ² 岡山大学地球物質科学研究センター)

1P32

西オーストラリア、ノースポール地域の約 35 億年前炭質物の顕微赤外分光分析

○伊規須 素子¹, 上野 雄一郎², 高井 研¹ (¹ 海洋研究開発機構, ² 東京工業大学)

G15 海洋化学・大気化学 (全般)

1P33

北太平洋亜寒帯域における亜硝酸塩同位体比を用いた N_2O 生成過程の解析

○松嶋 修一郎¹, 豊田 栄², 布浦 拓郎³, 眞壁 明子³, 吉田 尚弘² (¹ 東京工業大学大学院, ² 東京工業大学, ³ 海洋研究開発機構)

1P34

海洋観測プラットフォームへの化学センサの適用

○下島 公紀¹ (¹ 九州大学)

1P35

熱水の希ガス測定のための試み：2011 年上山温泉と上山標準ガスとの比較

○佐藤 佳子¹, 熊谷 英恵¹, 岩田 尚能², 鈴木 勝彦¹ (¹ 海洋研究開発機構, ² 山形大学)

G16 固体地球化学 (全般)

1P36

ケイ酸塩の酸素同位体比定量法: Microfluorination technique の再現

○大久保 智¹ (¹ ジャスコインタナショナル株式会社)

1P37

Interferences of Ba induced molecular ions in solution ICP-MS and their correction for direct determination of REEs in geothermal waters

○常 青¹, 中村 仁美¹, 岩森 光¹ (¹ 海洋研究開発機構)

1P38

阿蘇火山火砕碎堆積物中のアパタイトの揮発性成分組成

○道久 真理絵¹, 佐野 有司², 高畑 直人², 石田 章純², 小池 みずほ², 吉田 健太³, 東野 文子¹, 小木曾 哲¹ (¹ 京都大学大学院, ² 東京大学, ³ 大阪市立大学大学院)

1P39

ジルコンの Ce 異常とマグマの酸化還元状態の進化：石鎚コールドロンに産する火成岩類を例に

○竹原 真美¹, 堀江 憲路¹, 谷 健一郎², 吉田 武義³, 外田 智千¹, 清川 昌一⁴ (¹ 国立極地研究所, ² 国立科学博物館, ³ 東北大学大学院, ⁴ 九州大学大学院)

1P40

二次イオン質量分析計におけるジルコンの Pb/U 比補正法の再検証

○堀江 憲路¹, 竹原 真美¹ (¹ 国立極地研究所)

1P41

インド東ガーツ帯西部境界領域グラニュライトの年代学：ジルコンの U-Pb SHRIMP 年代とモナザイトの CHIME 年代によるアプローチ

○チャタジー アミタバ¹, 日高 洋¹, ダス カウシク¹, ボス サンカー² (¹ 広島大学大学院, ² プレジデンシー大学)

1P42

中国東北部鞍山地域における東山片麻岩の産状とジルコン U-Pb 年代測定

○上原 啓幹¹, 山本 伸次¹, 李 毅兵², 金 巍³, 昆 慶明⁴, 小宮 剛¹ (¹ 東京大学大学院, ² 中国地質科学院地質研究所, ³ 吉林大学, ⁴ 産業技術総合研究所)

第2日目(9月17日) ポスターセッション ポスター会場 7号館2階 210

SQ2 鉄の地球微生物学と地球化学

2P01

深海環境でのパイライト利用微生物群の解明

牧田 寛子¹, ○鈴木 優美², 関野 優也², 田中 英美子², 光延 聖³, 大橋 優莉³, 高村 岳樹², 高井 研¹ (¹ 海洋研究開発機構, ² 神奈川工科大学, ³ 静岡県立大学大学院)

2P02

深海底での微生物現場培養実験から紐解く鉄を基盤とした海底下微生物圏：放射光源 X 線分析法を駆使した微生物による地殻内エネルギー獲得戦略の解明

○大橋 優莉¹, 光延 聖¹, 坂田 昌弘¹, 鈴木 優美², 牧田 寛子³, 野崎 達生³, 川口 慎介³ (¹ 静岡県立大学, ² 神奈川工科大, ³ JAMSTEC)

G04 鉱物境界面の地球化学、水-岩石相互作用

2P03

モリブデンとタングステンのカルサイトへ分配挙動

○渡辺 勇輔¹, 高橋 嘉夫¹ (¹ 東京大学大学院)

G09 生物と有機物の地球化学

2P04

不溶性地層有機物中のクロロフィル由来物質：結合態マレイミド類・フタルイミド類

○養田 太一¹, 朝比奈 健太², 野本 信也¹ (¹ 筑波大学, ² 北海道大学)

2P05

水道水から放出される非メタン炭化水素

○猪狩 俊一郎¹ (¹ 産業技術総合研究所)

2P06

アルゼンチン Neuquén 盆地 K/Pg 境界堆積岩中の C・S 含有量分布と大量絶滅事変の南半球生命圏への影響

○赤井 真道¹, 藪田 ひかる¹ (¹ 大阪大学大学院)

2P07

森林域から流出する硝酸の起源：土壌水中の硝酸との三酸素同位体組成比較

○小幡 祐介¹, 安藤 健太², 大山 拓也², 中川 書子², 角皆 潤², 山下 尚之³, 齋藤 辰善², 佐瀬 裕之³ (¹ 三重大学, ² 名古屋大学, ³ 一般財団法人 日本環境衛生センター)

2P08

造礁性サンゴ骨格中脂肪酸の分子レベル炭素安定同位体分析に向けた適切な前処理方法の検討

中富 伸幸¹, ○岨 康輝², 田中 健太郎³, 葛西 里美¹, 山本 修一⁴ (¹ 創価大学大学院, ² 東邦大学, ³ 東京大学, ⁴ 創価大学)

G12 最先端計測・同位体化学の地球化学及び境界領域への応用(1)

2P09

鉄マンガンクラストの成因研究に向けたテルル安定同位体分析法の開発

○深海 雄介¹, 木村 純一¹, 鈴木 勝彦¹ (¹ 海洋研究開発機構)

2P10

スズ同位体を用いた青銅器の産地推定の可能性

○中井 俊一¹, 山崎 絵里香², 横山 哲也², 三船 温尚³, 齋藤 努⁴, 陳 建立⁵, サフー ユービン¹ (¹ 東京大学, ² 東京工業大学, ³ 富山大学, ⁴ 国立歴史民俗博物館, ⁵ 北京大学)

2P11

ケイ酸のプロトン化／脱プロトン化反応におけるケイ素の同位体分別

○藤井 俊行¹, Emily A. Pringle², Marc Chaussidon², Frédéric Moynier² (¹ 京都大学, ² パリ地球物理研究所)

G12 最先端計測・同位体化学の地球化学及び境界領域への応用(2)

2P12

酸素同位体異常($\Delta^{17}\text{O}$)を指標とした南極大気中硫酸の生成過程の季節変動解析

○石野 咲子¹, 服部 祥平¹, Savarino Joel², Jourdain Bruno², Preunkert Susanne², Legrand Michel², 吉田 尚弘¹ (¹ 東京工業大学大学院, ² LGGE/CNRS)

2P13

炭酸塩鉱物沈澱反応におけるマグネシウム同位体分別と XAFS 法による局所構造解析

○柵木 彩花¹, 肆矢 俊浩¹, 大野 剛¹, 小川 雅裕², 山川 庸芝明³, 高橋 嘉夫³ (¹ 学習院大学, ² 立命館大学, ³ 東京大学)

2P14

微量岩石試料の Li・Sr・Nd・Pb 同位体比の系統的分析のための化学分離法の検討

○川合 達也¹, 若木 重行², 永石 一弥¹, 石川 剛志² (¹ 株式会社マリン・ワーク・ジャパン, ² 海洋研究開発機構)

2P15

^{113}In - ^{203}Tl ダブルスパイクを用いた同位体希釈内標準 ICP-MS 法による岩石の微量元素濃度測定

○横山 哲也¹, 日野原 侑¹, 永井 友一朗¹, 森 智比古¹ (¹ 東京工業大学)

2P16

同位体希釈 ICP 質量分析による JCp-1 (サンゴ) および JCT-1 (シャコガイ) 中の 14 希土類元素の定量

○田中 剛¹, Lee Seung-Gu², Kim Taehoon³, Han Seunghee³, Lee Hyo Min², Lee Seung Ryeol², Lee Jong Ik² (¹ 名古屋大学, ² 韓国地質鉱物資源研究院, ³ 韓国極地研究所)

2P17

ICP 質量分析計を用いた地球化学標準試料(岩石・海水・炭酸塩)のリチウム同位体比迅速分析

○永石 一弥¹, 谷水 雅治², 石川 剛志³ (¹ (株) マリン・ワーク・ジャパン, ² 関西学院大学, ³ 海洋研究開発機構)

2P18

フェムト秒レーザーとエキシマーレーザーによる INTAV 火山ガラス試料のレーザーアブレーション ICP-MS 多元素分析の比較

○丸山 誠史¹, 服部 健太郎², 平田 岳史², 鈴木 毅彦³, 檀原 徹¹ (¹ 株式会社京都フィクション・トラック, ² 京都大学, ³ 首都大学東京)

2P19

高精度年代測定のための元素イメージング

○平田 岳史¹, 坂田 周平¹, 折橋 裕二², 鈴木 敏弘³ (¹ 京都大学大学院, ² 東京大学, ³ 東京工業大学)

2P20

多重検出器型-ICP 質量分析計のための高感度イオン検出器の開発

○平田 岳史¹, 坂田 周平¹ (¹ 京都大学大学院)

G13 原発事故で放出された放射性核種の環境動態

2P21

福島沖半外洋域に水平輸送される東京電力福島第一原子力発電所事故由来の粒状態放射性セシウム

Ken O Buesseler¹, Christopher R. German¹, ○本多 牧生², 乙坂 重嘉³, Erin E. Black¹, 川上 創², Steven J. Manganini¹, Steven M. Pike¹ (¹ Woods Hole Oceanographic Institution, ² 海洋研究開発機構, ³ 日本原子力研究開発機構)

2P22

名大キャンパス各所の放射線量を初年次教育に用いる

○田中 剛¹, 椋本 ひかり¹, 富山 慎二¹, 加藤 ともみ¹, 坂田 健¹ (¹ 名古屋大学)

2P23

ICP 質量分析法による長半減期放射性同位体分析法の開発と土壌試料への応用

○齋藤 陽介¹, 大野 剛¹, 村松 康行¹, 廣野 睦¹ (¹ 学習院大学)

第3日目（9月18日） ポスターセッション ポスター会場 7号館2階 211

S03 大気水圏光化学反応過程

3P01

立山における積雪中のイオン成分、アルデヒド類および過酸化水素の特徴
○渡辺 幸一¹,高辻 航平¹,平井 泰貴¹,矢地 千奈津¹,道上 芹奈¹(¹富山県立大学)

3P02

大気中オゾン生成速度の直接測定
○定永 靖宗¹,川崎 梓央¹,鶴丸 央²,井田 明²,岸本 伊織²,Ramasamy Sathiyamurthi²,坂本 陽介²,加藤 俊吾³,中山 智喜⁴,坂東 博¹,梶井 克純²(¹大阪府立大学大学院,²京都大学大学院,³首都大学東京大学院,⁴名古屋大学)

G03 放射性廃棄物と地球化学

3P03

瑞浪超深地層研究所深部地下水における深部起源ガスが^δDIC、CH₄に与える影響評価
○廣田 明成¹,東郷 洋子¹,伊藤 一誠¹,森川 徳敏¹,福田 朱里²,鈴木 庸平³,角皆 潤⁴,池谷 康祐²,小松 大祐²,岩月 輝希⁶(¹産業技術総合研究所,²明治大学,³東京大学大学院,⁴名古屋大学,⁵東海大学,⁶日本原子力研究開発機構)

G06 炭化水素資源の地球化学・深部炭素循環

3P04

バイオマーカー分析による東部南海トラフメタンハイドレート含有堆積物中のメタン生成活動の評価
○天羽 美紀¹,真保 恵美子¹,藤井 哲哉¹,吉岡 秀佳²,片山 泰樹²,坂田 将²(¹石油天然ガス・金属鉱物資源機構,²産総研)

G08 宇宙化学・惑星化学

3P05

中性子捕獲反応による Sm および Gd 同位体変動からわかる月隕石の宇宙線照射履歴
○佐久間 圭佑¹,日高 洋¹,米田 成一²(¹広島大学大学院,²国立科博)

3P06

局所同位体分析に向けたレーザーボストイオン化 SNMS の開発
○河井 洋輔¹,寺田 健太郎¹,上岡 萌¹,諏訪 太一¹,豊田 岐聡¹,石原 盛男¹,青木 順¹,中村 亮介²(¹大阪大学大学院,²大阪大学)

3P07

炭素質隕石の溶媒抽出画分に含まれる含酸素化合物の特徴
○横山 築¹,山下 陽平¹,北島 富美雄¹,山内 敬明¹,奈良岡 浩¹(¹九州大学大学院)

3P08

SIMS による Y81020 (CO 3.05) コンドライトのメタル粒子の親鉄性元素分析
○比屋根 肇¹,森下 祐一²,斎藤 元治³(¹東京大学,²静岡大学,³産業技術総合研究所)

3P09

希土類元素存在度から考えるユークライト隕石の分化過程
○大西 剛司¹,清水 保宏¹,世羅 浩平¹,日高 洋¹(¹広島大理)

3P10

X線顕微鏡(cSTXM)を用いたアエンデ隕石マトリクス中の有機物分析
○宮 大暉¹,武市 泰男²,宮本 千尋³,間瀬 一彦²,小野 寛太²,高橋 嘉夫⁴,宮原 正明¹(¹広島大学,²高エネルギー加速器研究機構,³東京大学,⁴東京大学)

G10 水圏や土壌圏の環境地球化学

3P11

水試料の炭素同位体分析のための試料保管: る過の効果とゴムセプタムの影響
○高橋 浩¹,半田 由子¹,高橋 正明¹,石川 修伍²,木村 浩之²(¹産業技術総合研究所,²静岡大学)

3P12

沈殿法による水試料の¹⁴C分析
○南 雅代¹,高橋 浩²(¹名古屋大学,²産業技術総合研究所)

3P13

自然同位体トレーサーを用いた新生産・再生生産速度の定量: 人工同位体トレーサー添加培養法との比較
○中川 書子¹,小幡 祐介¹,角皆 潤¹,小松 大祐²,田中 敦³,梅田 信⁴(¹名古屋大学大学院,²東海大学,³国立環境研究所,⁴東北大学)

3P14

単純な微生物食物連鎖系における重元素の挙動
○香西 直文¹,坂本 文徳¹,大貫 敏彦¹,佐藤 隆博¹,江夏 昌志¹,神谷 富裕¹,江坂 文孝¹(¹日本原子力研究開発機構)

3P15

自然的原因で重金属類を含む土砂の処理問題
○野田 典広¹(¹基礎地盤コンサルタンツ株式会社)

3P16

マラウイ南部の地下水の地球化学的特徴
○福山 蘭子¹,Moses Kachemwe¹(¹秋田大学大学院)

3P17

バングラデシュにおける高濃度ヒ素汚染地下水の地球化学的研究
○浅越 佑馬¹,寺門 靖高¹,岸部 克也¹,N. M. Refat Nasher²(¹神戸大学大学院,²Jagannath University)

3P18

紅河の河川水及び堆積物中のヒ素と鉛の挙動
○井上 凌¹,益田 晴恵¹,米澤 剛¹,Truong Xuanluang²,中野 孝教³(¹大阪市立大学大学院,²ハノイ鉱山地質大学,³総合地球環境学研究所)

3P19

熊野灘沖南海トラフの堆積物中におけるヒ素の固定と溶出過程
○吉西 晴香¹,益田 晴恵¹,湘田 茂司²(¹大阪市立大学大学院,²国立環境研究所)

3P20

鹿沼土利用による水中ヒ素の除去法
○後藤 啓¹,佐竹 研一¹(¹立正大学大学院)

3P21

別府血の池地獄の希土類元素と硫黄同位体比に関する研究
○前野 真実子¹,島田 雄樹¹,能登 征美¹(¹九電産業株式会社)

3P22

相模川河川水中に含まれる自然起源有機物の時空間変動
○井下 喜美華¹,上間 美穂¹,兒山 和子¹,山本 修一¹(¹創価大学大学院)

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2015年12月頃を予定しています。ニュース原稿は11月下旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会広報幹事・ニュース担当）

原田尚美
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域
Tel: 046-867-9504; Fax: 046-867-9455
E-mail: news-hp@geochem.jp

藪田ひかる
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1
大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻
Tel: 06-6850-5497; Fax: 06-6850-5480
E-mail: news-hp@geochem.jp